

Clavinova®

CVP-65

取扱説明書 (応用編)

もくじ

ページ

・各部の名称とはたらき	7
・クラビノーバの特徴	9
1. 音色と効果について	11
・音色を選ぶ	11
・打楽器(キーボード・パーカッション)について	12
・効果(リバーブ)をかける	13
・リバーブの深さを設定する	13
・2つの音色を混ぜる(デュアル機構)	14
・音量のバランスについて	14
・2つの音色を選んで弾く(スプリット機構)	15
・スプリットポジションを設定する	15
・音色を指定する	15
・音量のバランスについて	16
・ダンパー効果の機能範囲について	16
・音程を変える(トランスポーズ)	17
2. リズムを使って演奏する	18
・リズムスタイルを選ぶ	18
・速さ(テンポ)を調節する	18
・リズムのスタートの種類について	19
・フィルインを入れる	20
・リズムのストップの種類について	20
・自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう	21
・内蔵のリズムスタイルを選ぶ場合	21
・ディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合	21
・自動伴奏(ピアノABC)モードにする	22
・リズムの速さを指定する	22
・音色を指定する	23
・音量(ボリューム)について	23
・演奏をスタートする/ストップする	24
・フルキーボードABCで演奏	25
・楽譜の読み方	26
・転回テクニックで楽々演奏	28
・楽譜	29
・ソロスタイルで楽しもう	31
・ソロスタイルプレイモードにする	31
・スタイルを選ぶ	31
・スタイルを変更する	31
・演奏をスタートする/ストップする	32
3. ディスクオーケストラについて	33
・自動演奏させる	33
・ディスクオーケストラに合わせて練習(マイナスイワン機能)	35
・ガイドランプにしたがって弾く(ガイド機能)	36
・苦手なフレーズを繰り返し練習(フレーズリピート機能)	38
・リピート練習する(A-Bリピート機能)	39
・録音用ディスクへのコピー(マイレパートリーづくり)	39
4. 演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)	41
・フロッピーディスクについて	41
・録音する前に	42
・フォーマット(初期化)する	42
・演奏を録音する①	43
・1トラックに録音する	43
・2トラックに録音する	44
・3~10トラックに録音する	44
・演奏を再生させる	45
・記録内容について	46
・多重録音について	46
・ピアノABC録音をする	47
・演奏を録音する②(コードシーケンス)	48
・コードシーケンスについて	48
・コードを録音する	48
・ディスクの編集	50
・ディスクコピー①(同じディスク内でのコピー)	50
・ディスクコピー②(別のディスクへのコピー)	51
・内容を消去する(デリート)	52
5. その他の機能	53
・他の楽器と音程を合わせる(ピッチコントロール)	53
・タッチの感度を変える	54
・他の機器と接続する	55
6. MIDI機能でステップアップ	56
・MIDIとは?	56
・CVP-65のMIDI端子	56
・MIDIでできること	56
・MIDI関係の設定・機能	58
・MIDIインプリメンテーションチャート	64
7. 資料	65
・CVP-65の組み立て方	65
・オプション(別売品)のご紹介	66
・おかしい?と思ったら	67
・仕様	68
・エラーメッセージ一覧表	69
・発音数一覧表	69
・アフターサービスと保証	70

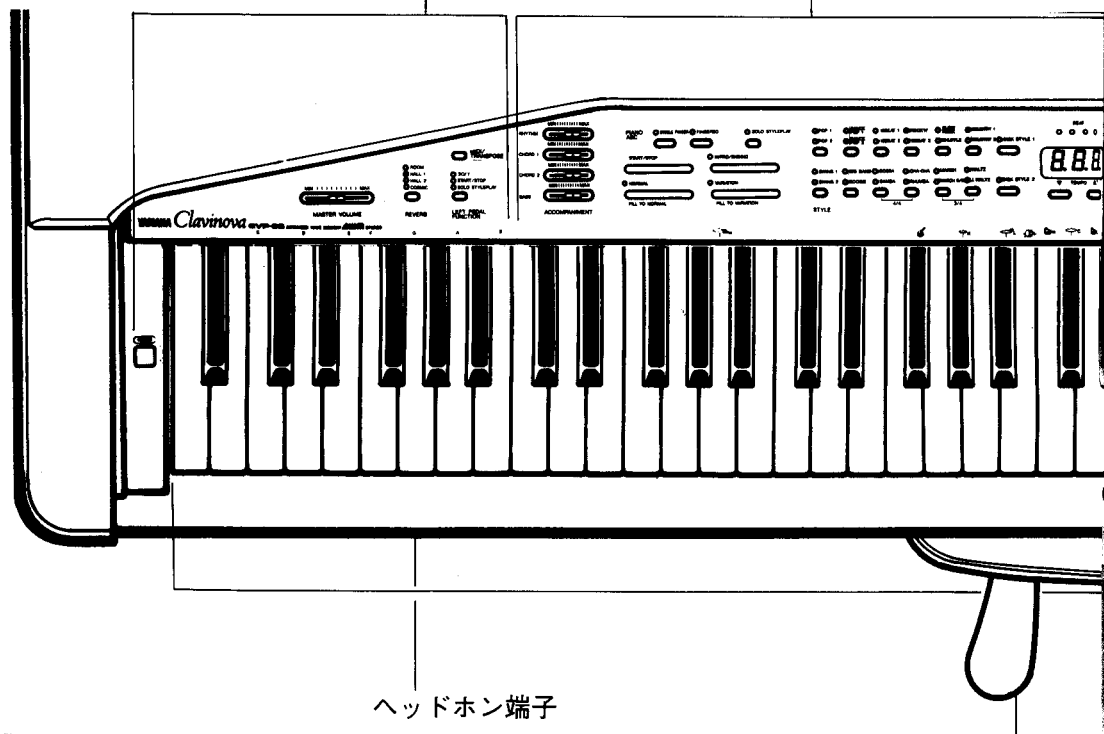
●各部の名称とはたらき

A. 基本操作部

- ①パワー(電源)スイッチ(→基本編3ページ)
- ②マスターボリューム(音量調節)(→基本編3ページ)
- ③リバーブ(残響)ボタン(→13ページ)
- ④レフトペダルファンクションボタン
(→基本編9ページ)
- ⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン
(→17、58～63ページ)

B. リズムスタイル部

- ⑥リズムボリューム(→23、34ページ)
- ⑦コード1,2ボリューム(→23、34ページ)
- ⑧ベースボリューム(→23、34ページ)
- ⑨ピアノABCボタン(→22、25、47ページ)
- ⑩ソロスタイルプレイボタン(→31ページ)
- ⑪スタート/ストップボタン(→19、20ページ)
- ⑫イントロ/エンディングボタン(→19、20ページ)
- ⑬フィル トウ ノーマルボタン、
フィル トウ バリエーションボタン(→20ページ)
- ⑭スタイルボタン(→18、21、31ページ)
- ⑮ビート(拍子)ランプ(→19ページ)
- ⑯テンポ表示器(→18、22ページ)
- ⑰テンポボタン(→18、22ページ)



ヘッドホン端子

ヘッドホンを接続する端子です。2本まで接続できます。

ヘッドホンを使うと、CVP-65のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。

操作を間違えた時は、もう一度
最初の手順からやり直してください。

CVP-65は、各機能のグループごとにパネル上のボタンが別れています。ここではそのグループごとに説明します。

→マークの応用編のページでくわしく説明してあります。

C. 音色部

- ⑱ボイス(音色)ボタン(→11、14、15ページ)
- ⑲スプリットボタン(→15ページ)

D. ディスクオーケストラ部

- ⑳ユーザランプ(→41ページ)
- ㉑ディスク挿入口(→33ページ)
- ㉒ディスク取り出しボタン(→41ページ)
- ㉓ソングナンバー(曲番号)表示器(→33ページ)
- ㉔ソングナンバー(曲番号)ボタン(→33ページ)
- ㉕ディスクオーケストラボタン(→33～40ページ)

G. その他

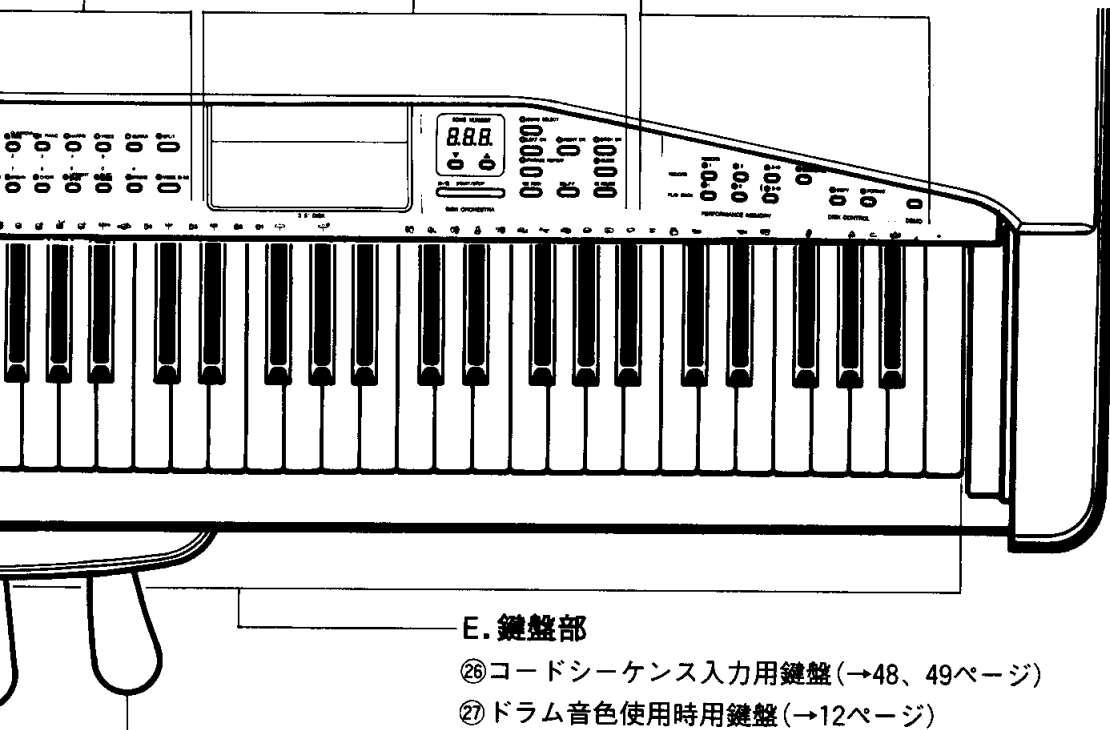
- ㉚パフォーマンスメモリーボタン(→43～47ページ)
- ㉛コードシーケンスボタン(→48ページ)
- ㉜ディスクコントロールボタン
(→40、42、50～52ページ)
- ㉝デモボタン(→基本編5ページ)

E. 鍵盤部

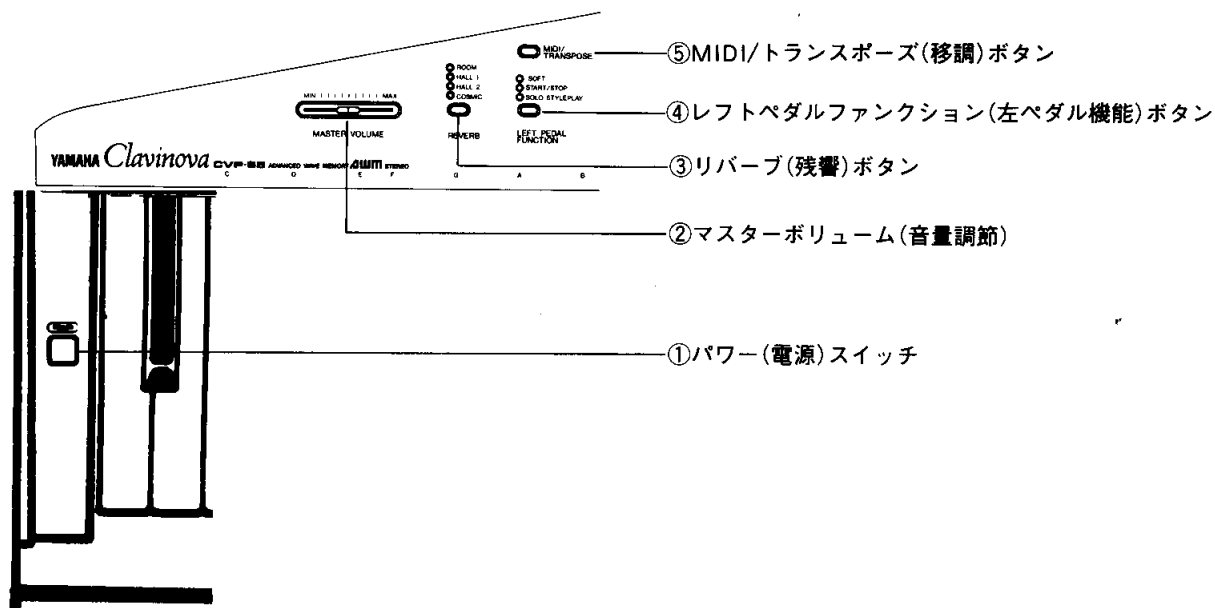
- ㉞コードシーケンス入力用鍵盤(→48、49ページ)
- ㉟ドラム音色使用時用鍵盤(→12ページ)
- ㊱低音側鍵盤(→15、16、22～24、32、49ページ)

F. ペダル部

- ㊲レフトペダル(→基本編9ページ)
- ㊳ソステヌートペダル(→基本編9ページ)
- ㊴ダンパーペダル(→基本編9ページ)



A. 基本操作部



①パワー(電源)スイッチ(→基本編3ページ)

電源を入れたり、切ったりするスイッチです。

②マスターボリューム(音量調節)(→基本編3ページ)

全体の音量を調節するレバーで、右の方にずらすほど音が大きくなります。

③リバーブ(残響)ボタン(→13ページ)

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。

4種類の中から好みの響きを選ぶことができます。

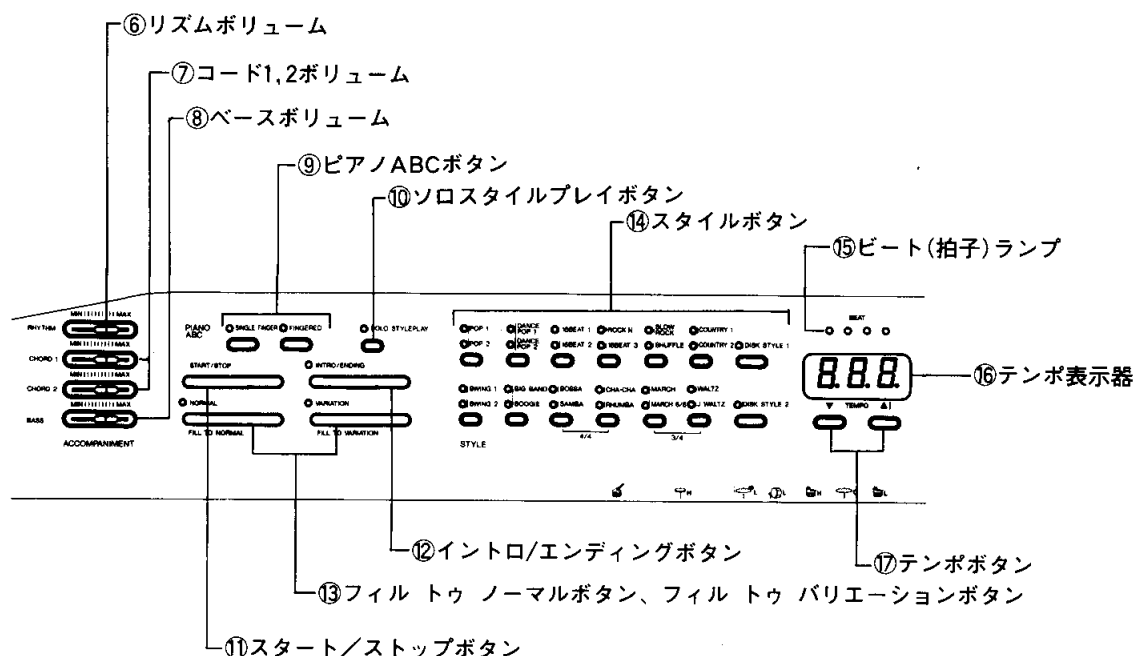
④レフトペダルファンクション(左ペダル機能)ボタン(→基本編9ページ)

左ペダルの機能を切り替えるボタンです。電源スイッチを入れた時はソフトペダルとして機能するようになっています。

⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン(→17、58～63ページ)

MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をする時に使用します。

B. リズムスタイル部



⑥リズムボリューム(→23、34ページ)

リズム音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

⑦コード1,2ボリューム(→23、34ページ)

基本的に、コード音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

基本的に、コード1のボリュームではリズム的なコード音の音量を調節でき、コード2のボリュームではメロディー的なコード音の音量を調節できます。

⑧ベースボリューム(→23、34ページ)

基本的に、ベース音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

また、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、このレバーを操作すると、手弾き音の音量を調節することができます。

⑨ピアノABCボタン(→22、25、47ページ)

リズム、コード、ベースによる自動伴奏をさせる時に使用するボタンです。シングルフィンガーボタンを押してランプを点灯させると指1本で、フィンガードボタンを押してランプを点灯させると普通のコードの押さえ方で、自動伴奏させることができます。

※ABCはオートベースコードの略です。

⑩ソロスタイルプレイボタン(→31ページ)

このボタンを押すと、それぞれのリズムスタイルに合わせた各パートの音色・リズム・ピアノABCが自動的にセットされます。

あれこれとボタンを押してアンサンブルの設定をしなくても、瞬時にセットアップして演奏できる機能です。

⑪スタート/ストップボタン(→19、20ページ)

リズムやピアノABCをスタートまたは停止させる時に押します。

また、パフォーマンスメモリーを使う時にも使用します。

⑫イントロ/エンディングボタン(→19、20ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングのパターンでリズムを停止させる時に押します。

⑬フィル トウ ノーマルボタン、

フィル トウ バリエーションボタン(→20ページ)

リズムやピアノABCにフィルインのパターンを入れる時に押します。2つのボタンのフィルインパターンは異なります。なお、フィルイン後のパターンも異なり、ノーマルでは普通のパターン、バリエーションでは盛り上がり(サビ)のパターンになります。また、フィルインおよびバリエーションパターンは、サビだけに限らず、最初から使ってもかまいません。

※フィルは、メロディーラインの空白部分などを装飾するリズムパターンのことです。

⑭スタイルボタン(→18、21、31ページ)

内蔵リズムの24種類または付属のディスクスタイル内の40種類の中から、リズムスタイルを選ぶことができます。

⑮ビート(拍子)ランプ(→19ページ)

拍子を目で確認できます。1番左が1拍目で赤色点灯、2,3,4番目が2,3,4拍目で緑色点灯します。

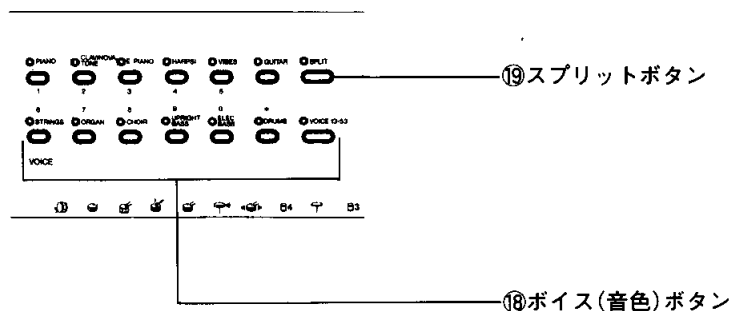
⑯テンポ表示器(→18、22ページ)

リズム停止時とテンポ調節時にはリズムの速さ(テンポ)を表示し、リズムスタート後はリズムをスタートさせてからの小節数を表示します。また、音色番号13~53の番号表示もします。その他、様々な設定の表示をします。

⑰テンポボタン(→18、22ページ)

リズムの速さ(テンポ)を調節できます。右側のボタン▲を押すと速くなり、左側のボタン▼を押すと遅くなります。また、音色を選ぶ時にも使用します。このボタンは、普通に押すと1ステップずつ変化しますが、強く押すと速いスピードで変化するようになっています。

C. 音色部



①⑧ ボイス(音色)ボタン(→11、14、15ページ)

演奏に使う音色を選ぶことができます。

ボイスボタン上に表示されているのは12種類の音色だけですが、音色番号13～53の音色を選ぶこともできます。

選んだ音色のランプが点灯しますが、音色番号13以降の音色を選んだ時は、ボイス13～53ボタンのランプが点灯します。

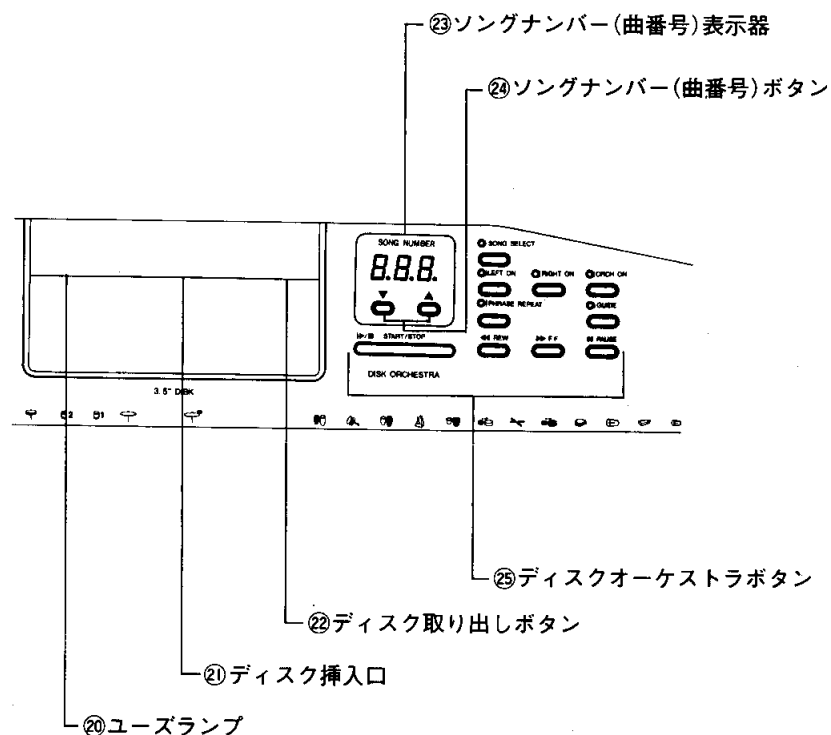
なお、ドラムスを選んだ場合には44種類の打楽器音を使って、自分でリズムパートを演奏することができます。(ドラムスにした時の各鍵盤への打楽器の割付が、鍵盤上部にイラストで示されています。)

また、1～0までの音色ボタンは、音色を選ぶ時などの数字ボタンの役割もします。

①⑨ スプリットボタン(→15ページ)

低音部を高音部と異なった音色で鳴らしたい時にオンにします。低音部の音色は、このボタンを押しながら、希望する音色のボタンを押して指定します。低音部と高音部の境(低音部の上限)は、このボタンを押しながら、境にしたい鍵盤を押すことにより変更できます。

D. ディスクオーケストラ部



②① ユーズランプ (→41ページ)

CVP-65とディスクの間でデータがやりとりされている時に点灯するランプです。

②② ディスク挿入口 (→33ページ)

フロッピーディスクを差し込むところです。

②③ ディスク取り出しボタン (→41ページ)

フロッピーディスクを取り出す時に押すボタンです。

②④ ソングナンバー(曲番号)表示器

(→33ページ)

パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラの状態で曲番号やフレーズ番号を指定すると、それらの番号を表示します。

その他、様々な設定の表示をします。

②⑤ ソングナンバー(曲番号)ボタン (→33ページ)

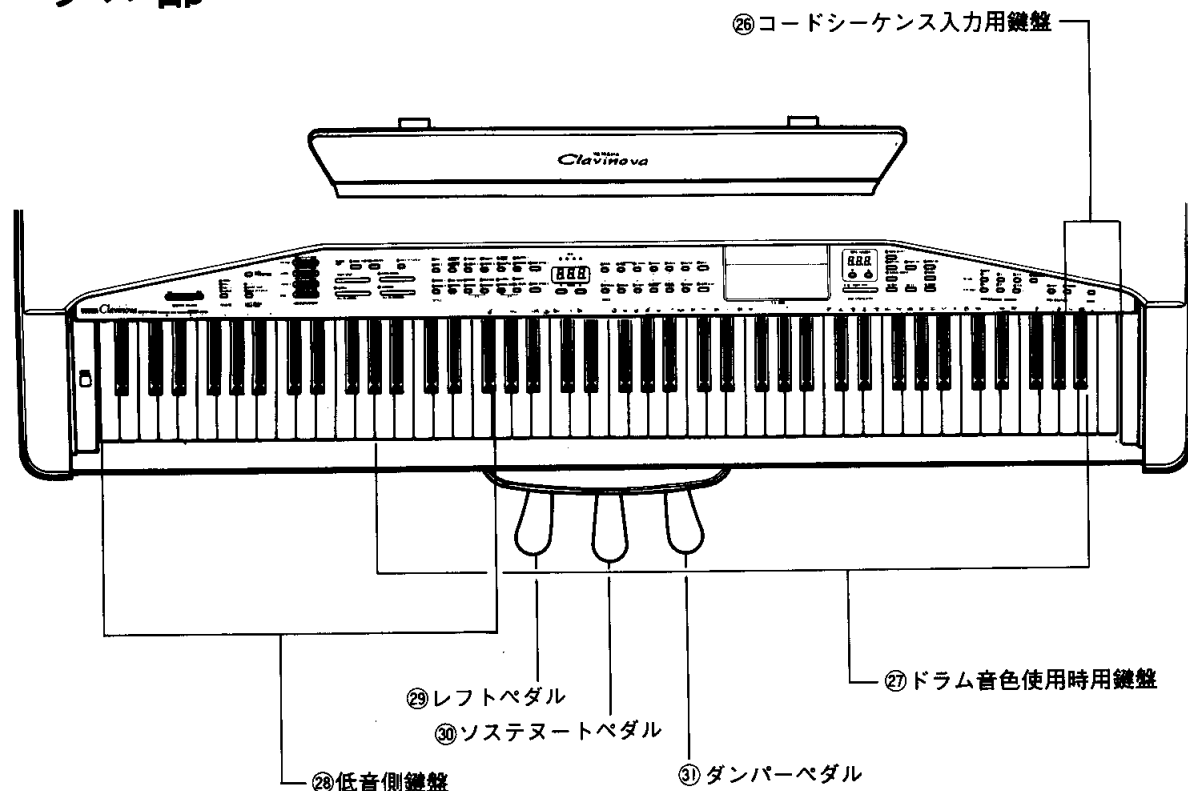
パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラでの、曲番号やフレーズ番号の指定に使用します。また、ディスクコントロールの設定でも使用します。

②⑥ ディスクオーケストラボタン (→33～40ページ)

クラビノーバ用音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」に収められている曲を自動演奏させたり、それを使って練習する時に使用します。

E. 鍵盤部

F. ペダル部



②⑥コードシーケンス入力用鍵盤(→48、49ページ)

自分でコード進行を録音する時に、そのコードを1ステップごとに入力するのに、これらの各鍵盤を使用します。

②⑦ドラム音色使用時用鍵盤(→12ページ)

ドラムスの音色を指定すると、自分でリズムパートを演奏することができます。これらの各鍵盤に44種類の打楽器音が割り付けられており、鍵盤上部にイラストで表示されています。

②⑧低音側鍵盤(→15、16、22～24、32、49ページ)

電源を入れた時は、F#2より左側の鍵盤が低音側鍵盤になります。(ピアノABCまたはスプリットの状態にした時、ガイドランプがスプリットポジションを点灯表示します。)

ピアノABCやスプリット演奏など、低音部の音色が高音部と異なる場合のみ関係します。低音部と高音部の境界線(スプリットポジションといいます)は、電源を入れた時はF#₂ですが、自由に位置を変更できます。その位置から左側の鍵盤が、低音側鍵盤となります。

②⑨レフトペダル(→基本編9ページ)

このペダルの機能は、3種類の中から選択できます。

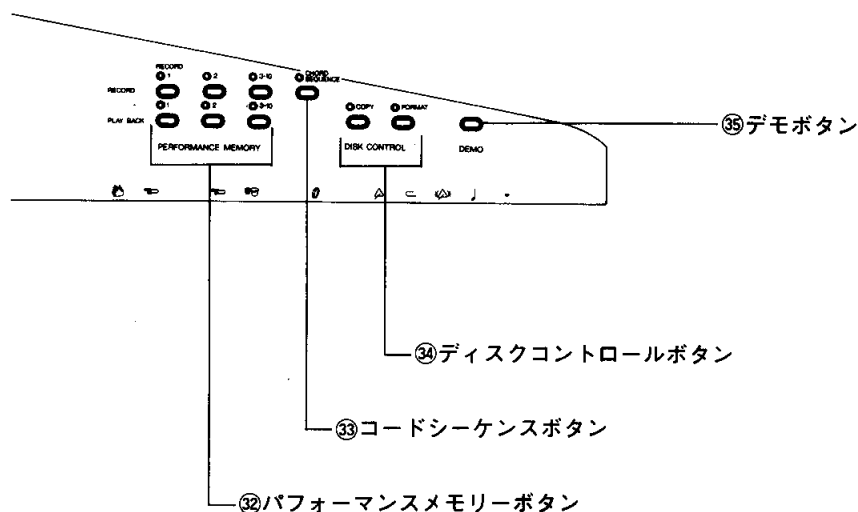
③②ソステヌートペダル(→基本編9ページ)

このペダルを踏むと、ペダルを踏んだ時に押さえていた鍵盤の音だけに余韻がつきます。

③①ダンパーペダル(→基本編9ページ)

このペダルを踏むと、ドラムスを除く全ての音色に余韻がつきます。

G. その他



③② パフォーマンスメモリーボタン (→43～47ページ)

録音用のフロッピーディスクを使用して自分の演奏を録音したり、後でそれを聴いたり、それに合わせて演奏する時に使用するボタンです。

"1"、"2"、"3-10"のように3つのボタンに割り付けられた10ヶのトラックがありますが、1つの曲の楽器編成(パート)を10トラックに分けて録音することができます。

たとえば、レコード2ボタンを押すとトラック2に演奏を録音可能になり、プレイバック2ボタンを押すとトラック2に録音済みの演奏が再生可能になります。

③③ コードシーケンスボタン (→48ページ)

自分でコード進行を録音する時に押します。

③④ ディスクコントロールボタン

(→40、42、50～52ページ)

パフォーマンスメモリー等で使うフロッピーディスクのフォーマットや、録音した曲やデータをコピーする時に使用します。

③⑤ デモボタン (→基本編5ページ)

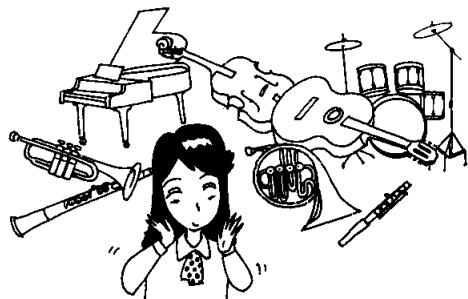
CVP-65には、デモンストレーション曲が24曲入っています。そのデモ演奏を聴く時に使用します。

デモ演奏スタート後にもう一度押すと、デモ演奏はストップします。

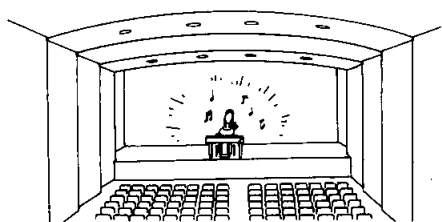
デモモードを解除する場合には再びデモボタンを押します。

●クラビノーバの特徴

リアルな響き。先進のAWM音源が楽しめる**53音色**。



コンサートホールの臨場感が再現できる**リバーブ**。



同時に2つの音色で演奏できる **デュアル機能**。



低音部と高音部を異なった音色で演奏できる**スプリット機能**。



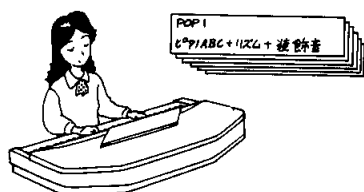
さまざまな演奏スタイルに対応する**内蔵24種類+ディスクスタイル40種類**のオートリズム。



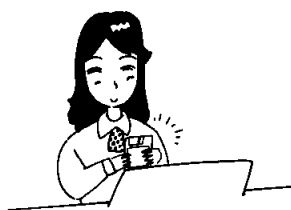
ベースとコードによる伴奏を簡単につけられるピアノABC(オート・ベース・コード)。



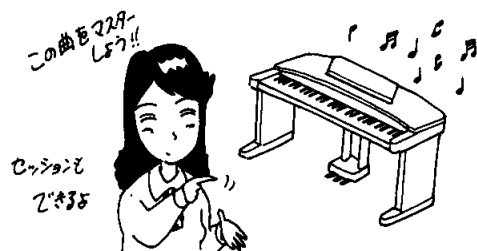
それぞれのリズムスタイルに合わせて自動セットされるソロスタイルプレイ。



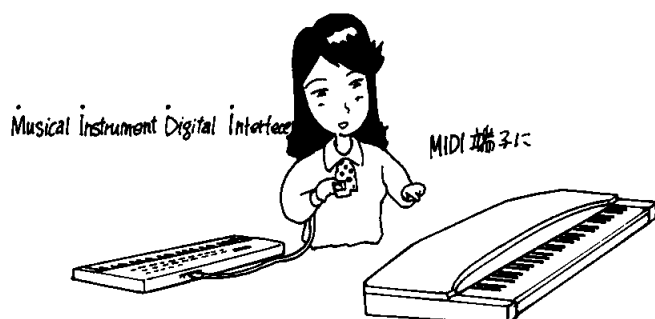
自分の演奏を録音して再生できるパフォーマンスメモリー。



ディスクオーケストラコレクションソフトにより、オーケストラやバンドに合わせて練習できるディスクオーケストラシステム。



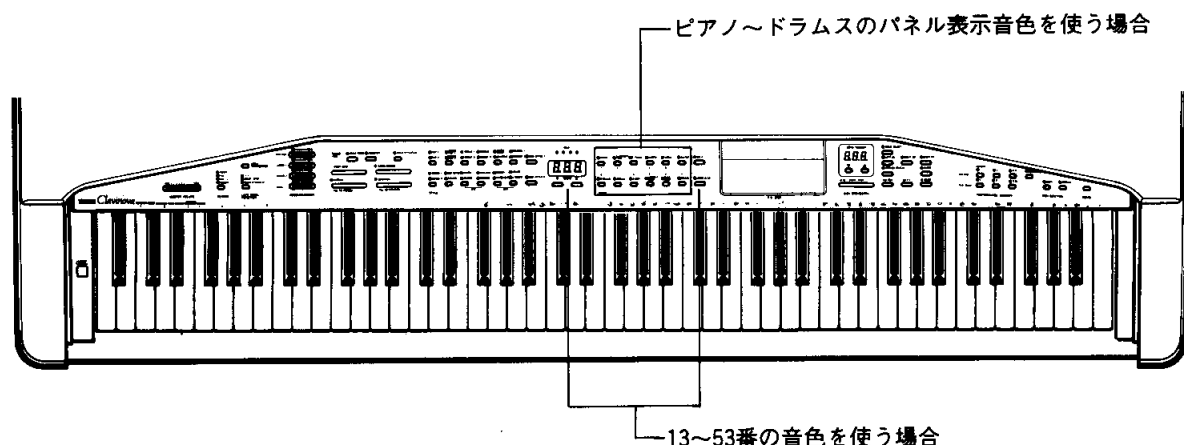
他の電子楽器と接続して同時演奏が楽しめるMIDI端子装備。



1. 音色と効果について

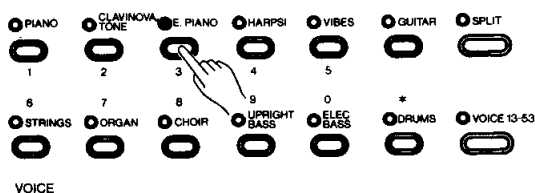
CVP-65には53種類の音色があります。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

●音色を選ぶ



ピアノ～ドラムスのパネル表示音色を使う場合

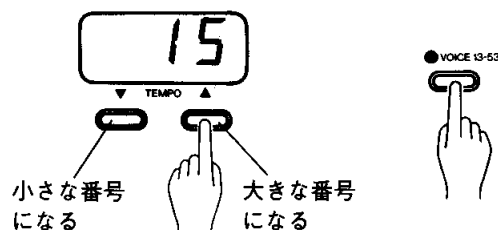
音色を選んで音色ボタンを押します。



(つまり、この場合はエレクトリックピアノが選ばれたことになります。)

13～53番の音色を使う場合

ボイス13～53ボタンを押しながら、テンポボタンを押して音色番号を指定します。



(つまり、この場合はトランペットが選ばれたことになります。)

【こんなこともできる！】

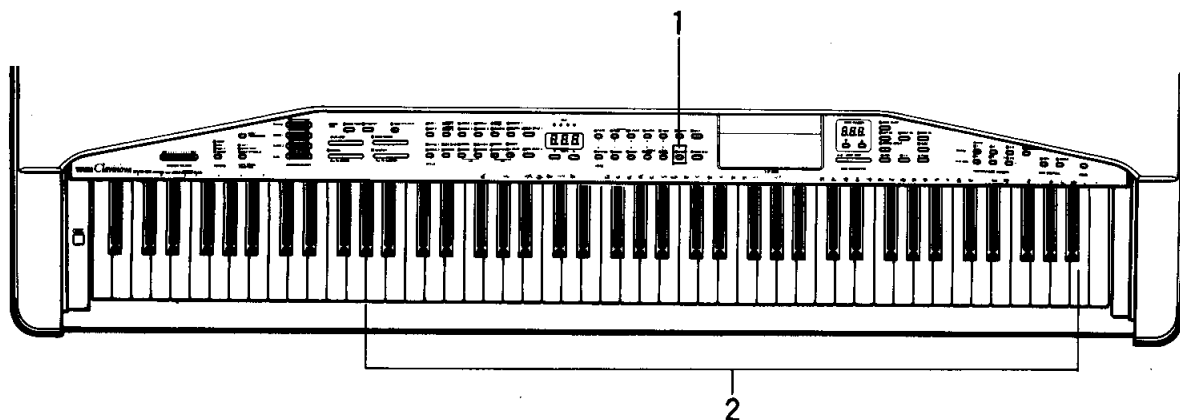
- ・13～53の範囲の音色指定方法には、もう1つあります。
- ・ドラムスボタンを押しながらボイスボタンの1～0を押して指定する方法です。最初に10の位の値を表示させ、次に1の位の値を表示させます。
- ・たとえば27番の音色を指定する場合は、ドラムスボタンを押しながら、2(クラビノーバトーン)ボタンを押し、引続きドラムスボタンを押したまま、7(オルガン)ボタンを押します。

【補足】

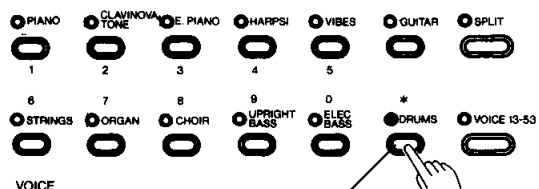
- ・基本編の8ページに音色一覧表があります。
- ・53種類の音色の中には、実際の楽器がクラビノーバの音域よりも狭いものがあります。そのような楽器の音域外の音色については、同系統別楽器の音色になっているものがあります。(例：音色番号26のバイオリンなど)

●打楽器（キーボードパーカッション）について

41種類の打楽器音を使い、打楽器を担当することができます。鍵盤に各打楽器が割り付けられていますので、鍵盤を押すことにより音を出すことができます。



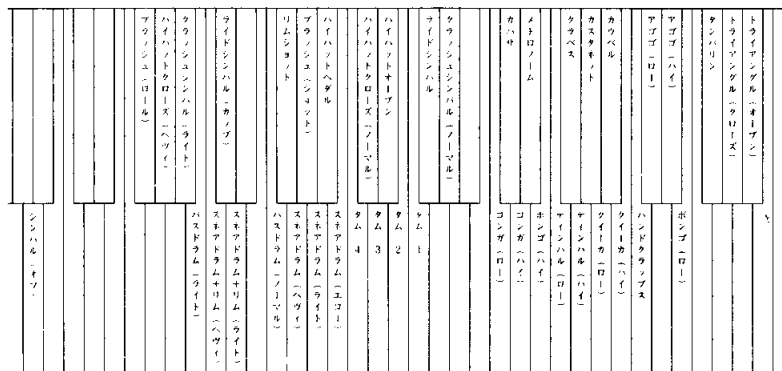
1 ボイスボタンのドラムスを押します。



ランプを点灯させる。

2 演奏します。

A₁～A₆[#]の鍵盤に各打楽器が割り付けられていますので、目的の鍵盤を押して演奏します。

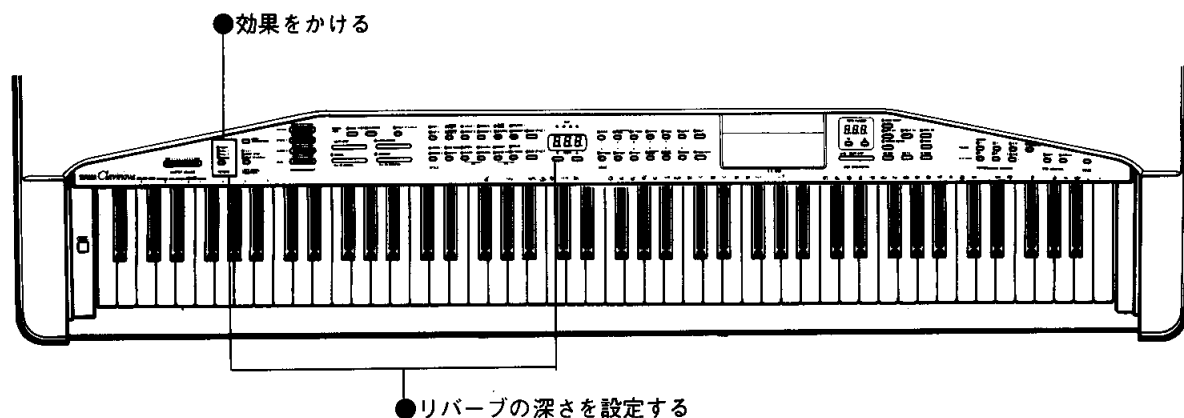


「こんなこともできる！」

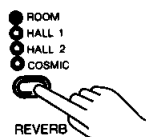
- ・シンバルの音を短くしたい時は、シンバルの鍵盤を押した後、シンバルオフ(A₁)の鍵盤を押してください。シンバルオフの鍵盤を押した瞬間にシンバルの音が切れます。

●効果（リバーブ）をかける

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。
リバーブボタンを押して希望する響きの選択ができます。



ボタンを押すごとに、順に切り替わります。

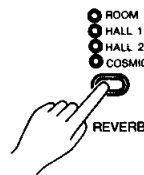


- ・ オフ：
どのランプも点灯させない状態ではオフとなり、リバーブはかかりません。
- ・ ルーム：
響きやすい部屋で弾いた時のリバーブがかかります。
- ・ ホール1：
小さめのコンサートホールで弾いた時の響きが得られます。
- ・ ホール2：
大きめのコンサートホールで弾いた時の響きが得られます。
- ・ コズミック：
こだまのような響きが得られます。

●リバーブの深さを設定する

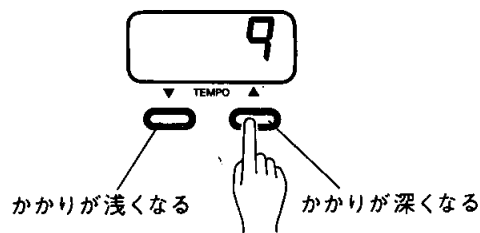
リバーブのかかる深さを自由に設定できます。

①リバーブボタンを押しながら、



②テンポボタンで深さを指定します。

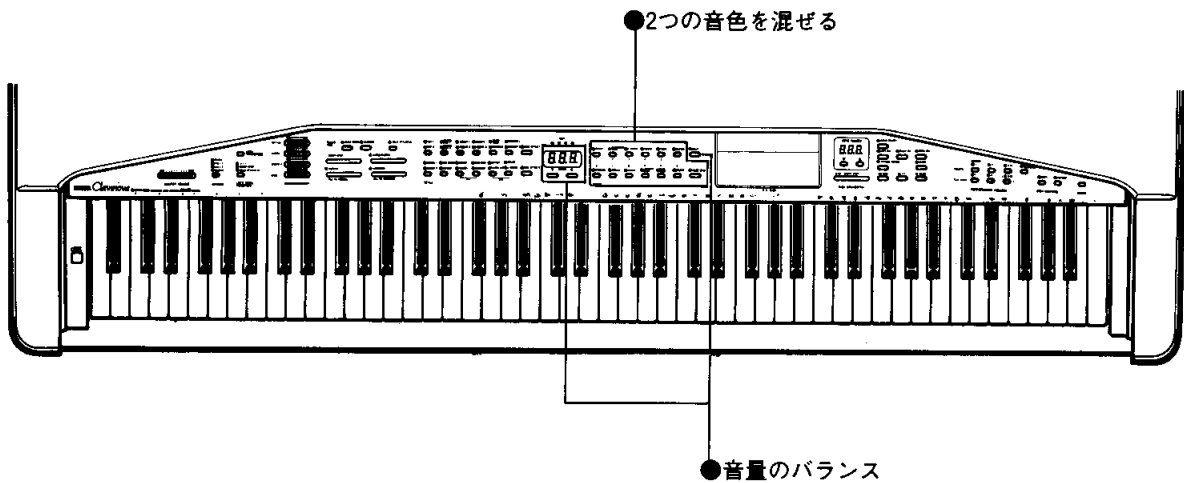
0～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。



【補足】

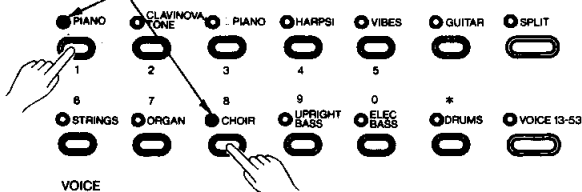
・ ベース音、リズム音にかかる効果の深さは浅めになっています。

●2つの音色を混ぜる(デュアル機構)



2つの音色を混ぜて鳴らすことができます。組み合わせたい2つの音色のボタンを同時に押します。

選んだ音色のランプが両方点灯



(つまり、この場合はピアノとクワイアが選ばれたことになります。)

●音量のバランスについて

2つの音色の音量バランスを変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、



②テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。
テンポ表示器を見ながら設定します。



TEMPO



小さい音色番号(ピアノ)
の音量バランスが大きく
なります。

大きい音色番号(クワイア)
の音量バランスが大きく
なります。

【補足】

- ・1音色の状態に戻す時は、通常通り1音色の指定をします。(2音色の状態から1音色の状態に戻ります。)

【アドバイス!】

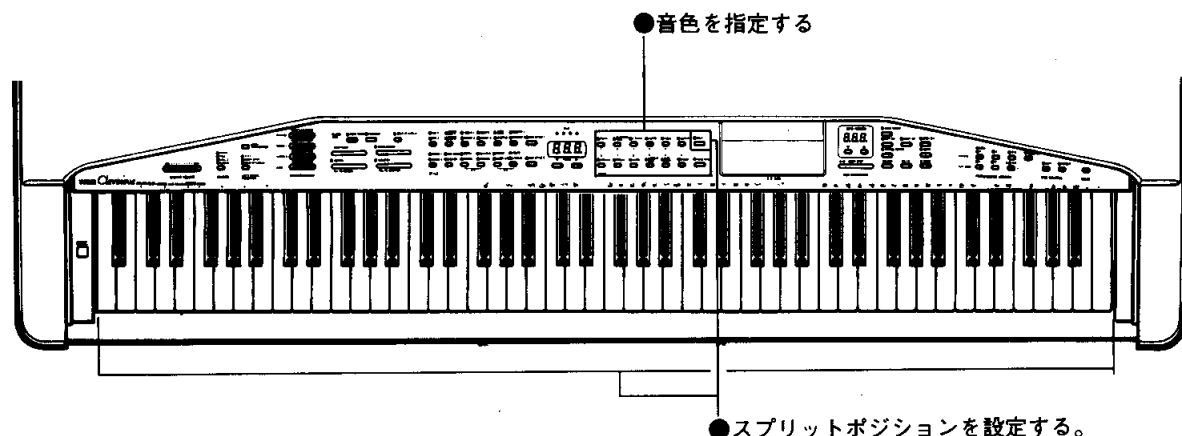
- ・この機能を使うと音に厚みが出ます。サビなどに使うと効果的です。
- ・13-53ボタンに記憶されている音色も、片方の音色として使うことが可能です。

【注意!】

- ・ドラムスの音色は指定できません。
- ・13～53の範囲の音色同士を組み合わせることはできません。
- ・スプリット機能使用時は2つの音色を混ぜて鳴らすことはできません。

● 2つの音色を選んで弾く(スプリット機構)

低音部を弾く音と高音部を弾く音の音色を、異なったものにして演奏できます。それぞれの音色を指定できます。



● スプリットポジションを設定する

① スプリットボタンを押します。

ランプが点灯して、スプリット演奏が可能になります。



② スプリットポジションを変更できます。

スプリットボタンを押しながら、

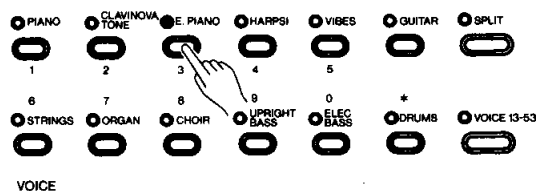


低音部と高音部の境にしたい鍵盤を押して指定します。境にした鍵盤は低音部側に含まれます。



● 音色を指定する

① 高音部の音色を指定します。

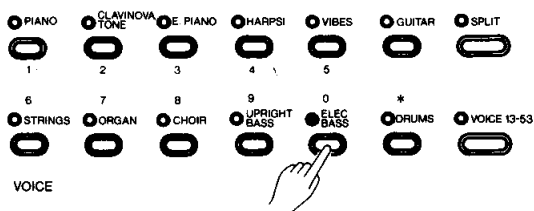


② 低音部の音色を指定します。

スプリットボタンを押しながら、



ボイスボタンを押して指定します。

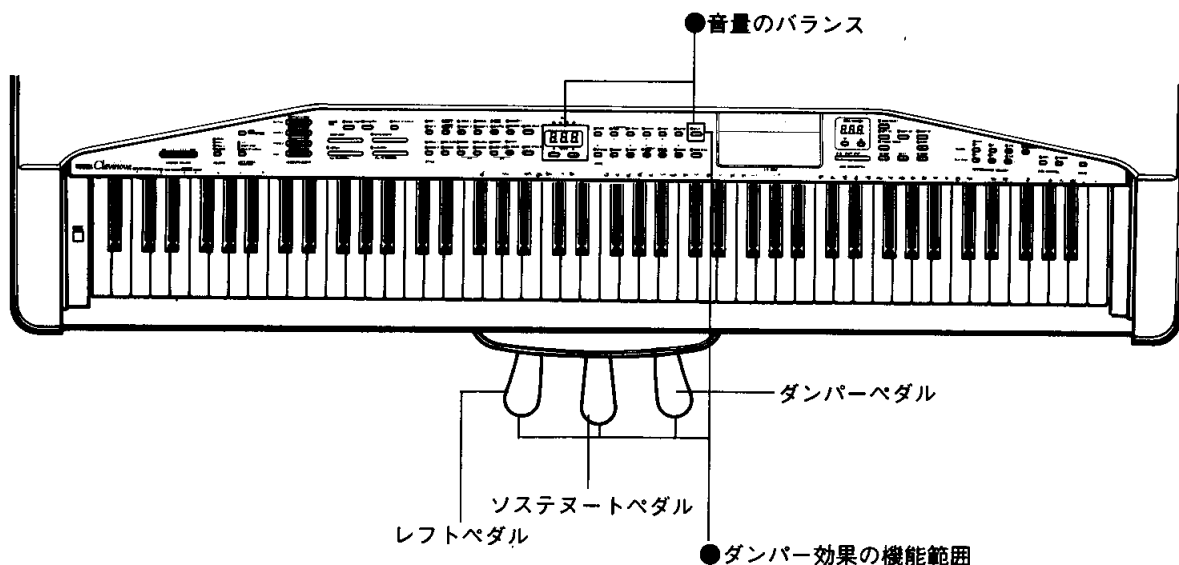


【補足】

- ・電源を入れた時は、スプリットポジションはF#₂に設定されます。
- ・スプリット状態にした時に点灯したガイドランプの位置が、スプリットポジションです。
- ・電源を入れた時は、高音部の音色はピアノ、低音部の音色はアップライトベースになります。

【注意！】

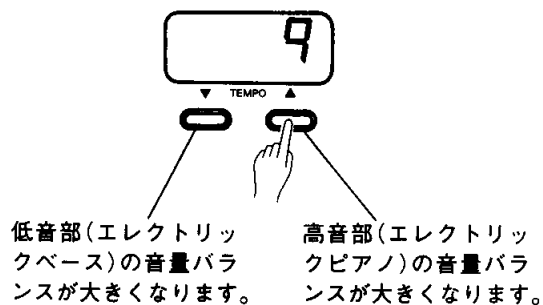
- ・デュアル機能とスプリット機能を同時に使うことはできません。
- ・低音部の音色にベース以外の音色を指定した場合、その音色は1オクターブ高く発音されます。



●音量のバランスについて

低音部と高音部の音量バランスを変えることができます。

- ①スプリットボタンを押しながら、
 - ②テンポボタンでバランスを指定します。
- 1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。
テンポ表示器を見ながら設定します。



●ダンパー効果の機能範囲について

ダンパーペダルの機能範囲を変えることができます。

- ①スプリットボタンを押しながら、
- ②ダンパーペダルを踏むと：
 - 高音部にのみ効果可能になります。
 - レフトペダルを踏むと：
 - 低音側にのみ効果可能になります。
 - ダンパーペダルとソフトペダルを踏むと：
 - 高音部と低音部の両方に効果可能になります。

【補足】

・ソフト、ソステヌート機能は、高音部と低音部の両方に効果可能です。

【注意！】

・電源を入れた時は、高音部にのみダンパー効果をかけることが可能になります。

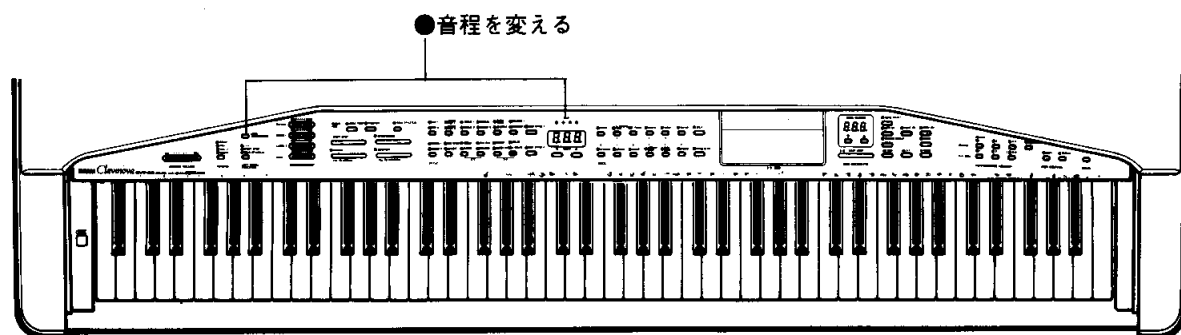
●音程を変える（トランスポーズ）

押さえる鍵盤（運指）を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。（つまり、弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。）

音程を変える時にはここに示すトランスポーズという機能を使って、希望する量だけずらしてください。

★±6半音の範囲でずらすことができます。つまり”ド”の音なら高い方に最大で”ファの#”（半オクターブ）まで、低い方も最大で”ファ#”（半オクターブ）までずらすことができます。

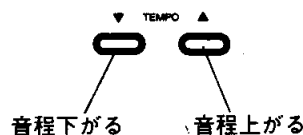
たとえば+5半音ずらすと



1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



2 テンポボタンで移調量を指定します。



【アドバイス！】

・この機能は合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキーを合わせる時にも便利です。

【補足】

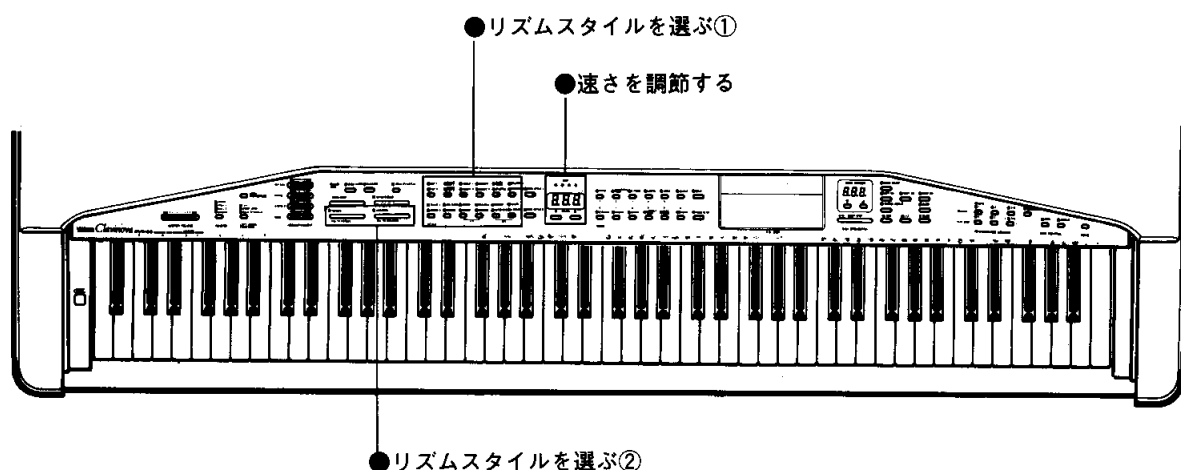
- ・たとえば”ド”の音を”ファ”の音に変えたい時は、5半音高くすればよいわけですから、値を+5（表示は5）にします。
- ・発音中の音については、移調量を変更しても移調された音では発音されません。次の押鍵の時から、移調された音程で発音されます。
- ・電源を入れた時は、いつも元の高さに戻っています。また、▼ボタンと▲ボタンを同時に押せば0に戻ります。

【注意！】

・トランスポーズの結果により発音域（A-1～C7）以外となった鍵盤を弾いた時は、高音発音域外は1オクターブ低く発音され、低音発音域外は1オクターブ高く発音されます。

2. リズムを使って演奏する

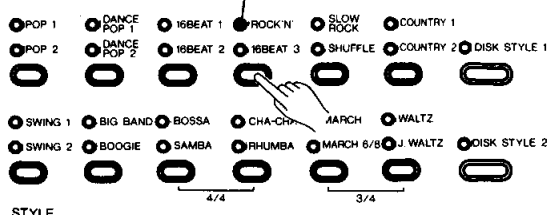
CVP-65のリズムスタイルには、内蔵リズムの24種類と付属のディスクスタイル内の40種類、合計64種類あります。ここでは、この内の内蔵リズムを使って演奏してみます。



●リズムスタイルを選ぶ

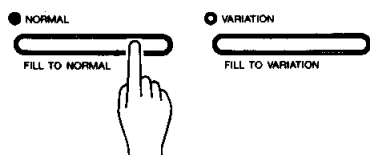
①スタイルボタンでリズムスタイルを選びます。

選んだリズムスタイルのランプが点灯

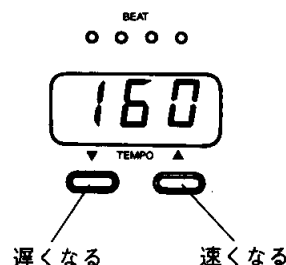


各ボタンの上段のリズムスタイルから下段のリズムスタイルに切り替える場合、または下段のリズムスタイルから上段のリズムスタイルに切り替える場合は、もう1度そのボタンを押してください。

②ノーマルかバリエーションかを選びます。



●速さ（テンポ）を調節する



テンポ表示器で1分間の拍数を見ながら設定します。

【補足】

- 各リズムスタイル共にノーマルとバリエーションの2パターンがありますので、内蔵リズムと付属のディスクスタイル内のリズムを合計すると、64種類×2パターン=128種類あるという見方もできます。
- ディスクスタイル内のリズムの指定方法は21ページをご覧ください。
- リズムが止まっている時に、リズムを切り替えると、自動的にそのリズムの標準テンポに変わります。
- 電源を入れた時は、いつもポップス1の標準テンポ J=86に戻っています。また、▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、選ばれているリズムスタイルの標準テンポに戻ります。

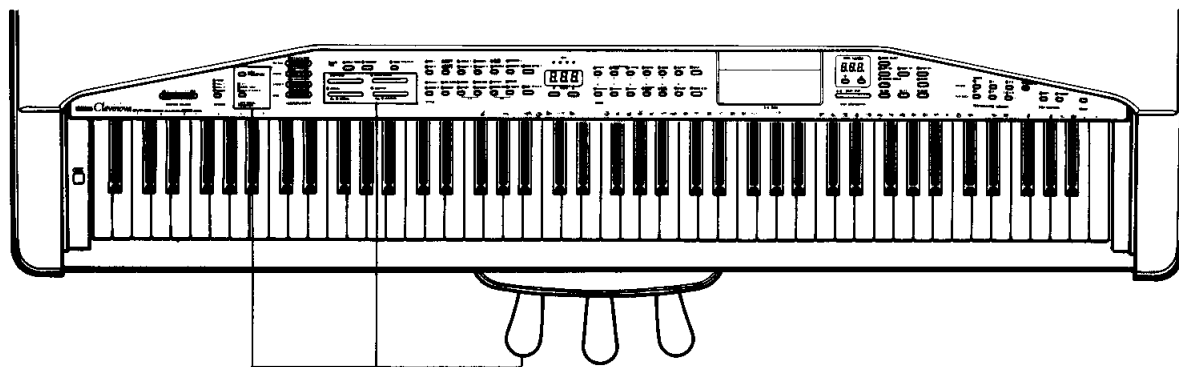
【注意！】

- リズムスタイルを2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

【こんなこともできる！】

- テンポボタンは、区切って押すと値が1ステップずつ変わります。また、強く押し続けると素早く連続して変わり、弱く押し続けるとゆっくり連続して変わります。
- ボサノバボタンとチャチャボタンを同時に押すことにより、メトロノーム 4/4のパターンをスタートさせることができます。また、マーチボタンとワルツボタンを同時に押すことにより、メトロノーム 3/4のパターンをスタートさせることができます。ノーマルパターンの時は1拍目のみ強拍、バリエーションパターンの時は全拍共に強拍で発音されます。

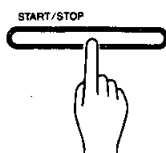
●リズムのスタートの種類について



●リズムのスタート

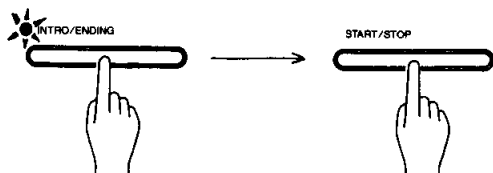
すぐにスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。



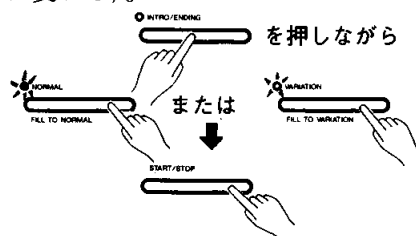
イントロパターンからスタートさせる場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押す(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅)、
- ②次にスタート/ストップボタンを押す(イントロの間イントロ/エンディングボタンのランプが点灯に変わり、イントロ後消灯する)。



フィルインのパターンからスタートさせる場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押しながら(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅)、
- ②フィル トゥ ノーマルボタンまたはフィル トゥ バリエーションボタンを押す(フィルボタンの点滅に変わる)、
- ③次にスタート/ストップボタンを押す(フィルインの間フィルボタンのランプが点滅し、フィルイン後点灯に変わる)。



ペダルによりスタートさせる場合

レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにすれば、レフトペダルを踏むことによりリズムがスタートし、もう一度踏むと停止します。



リズムをスタートさせた後は、ビートランプの点灯が左から順に、1拍ごとに移動します。



[こんなこともできる!]

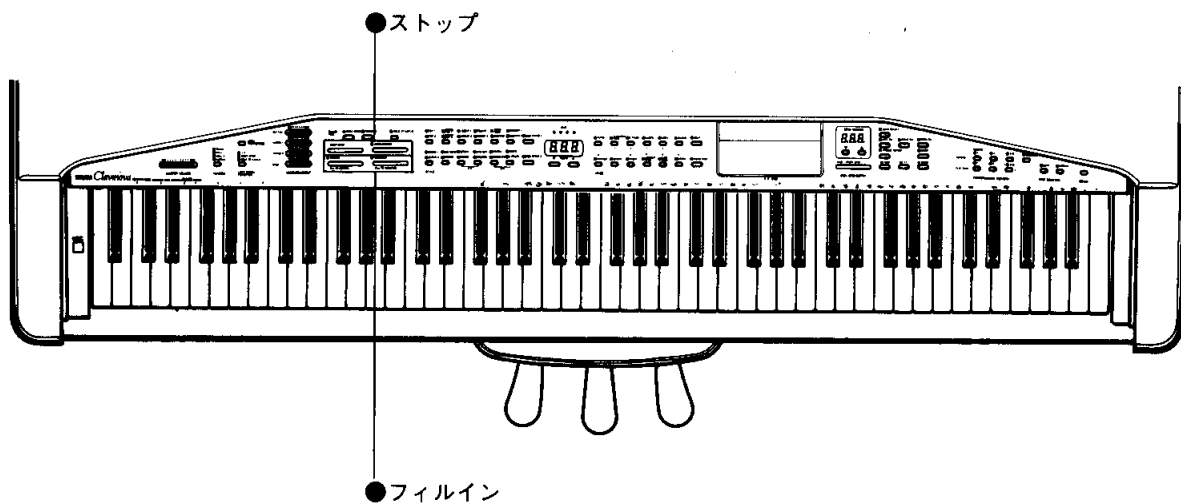
- ・手弾き演奏の開始と共にスタート(シンクロスタート)させることもできます。MIDIトランスポートボタンを押しながら、フィル トゥ ノーマルボタンを押してください。シンクロスタートを解除する時は、もう一度同じ操作をします。

[補足]

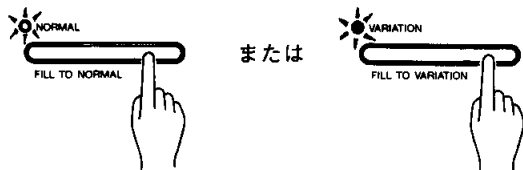
- ・ピアノABC機能(21ページ参照)を使っている場合は、低音部の鍵盤(スブ

リットポジションより左側の鍵盤)を押すとスタートします。(自動的にシンクロスタートのなっています。)

- ・イントロパターンの長さはリズムスタイルにより異なり、1~4小節です。
- ・フィルインスタートのパターンは1小節です。
- ・イントロパターンからスタートさせた場合は、リズムをストップするとイントロ状態が保持され、ランプが点滅します。解除する時はもう一度イントロ/エンディングボタンを押してください。



●フィルインを入れる



フィル トウ ノーマル：

フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、
ノーマルパターンになります(フィルイン後点灯)。

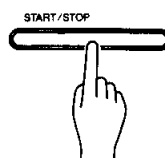
フィル トウ バリエーション：

フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、
バリエーションパターンになります(フィルイン
後点灯)。

●リズムのストップの種類について

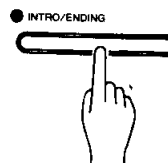
すぐに停止させる場合

スタート/ストップボタンを押す。



エンディングのパターンで停止させる場合

イントロ/エンディングボタンを押す(エンディング
の間ランプが点灯)。



【こんなこともできる！】

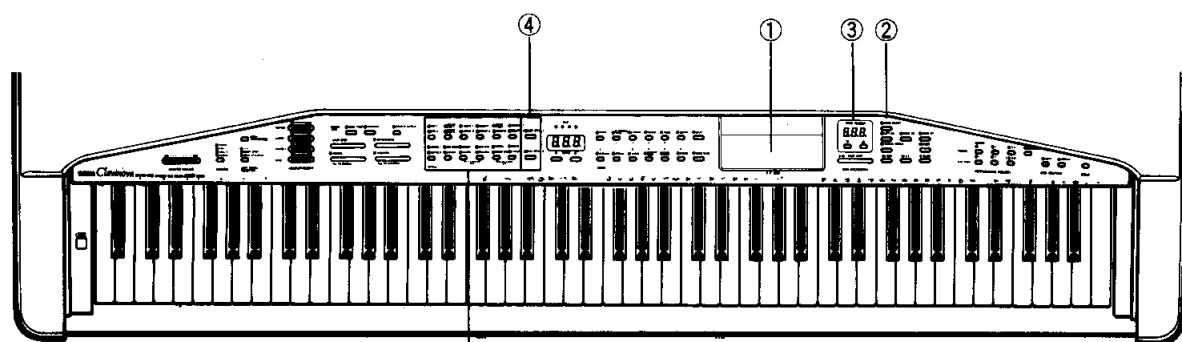
・演奏中、別のリズムスタイルに切り替えることもできます。切り替えるリ
ズムスタイルのボタンを押してください。

【補足】

- ・フィルインは、最長で1小節です(押すタイミングで長さが異なります)。
また、押し続けるとフィルインのパターンが繰り返されます。
- ・フィルイン中にもう一度同じフィルインボタンを押すと、フィルインパ
ターンが解除されて、ノーマルまたはバリエーションのパターンに戻ります。
- ・エンディングパターンは2~8小節です。小節の前半でボタンを押した時は
その小節からエンディングが入り、後半で押した時は次の小節から入ります。

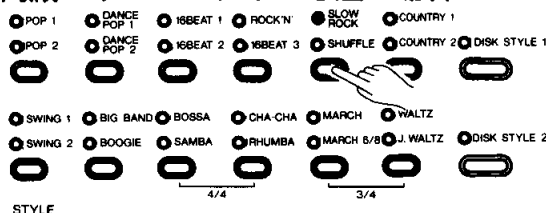
●自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう

ピアノABC機能を使って、自動伴奏させてみましょう。曲の流れにそって左手(低音部)でコードを演奏していけば、リズム、コード、ベースによる自動伴奏が鳴ります。



●内蔵のリズムスタイルを選ぶ場合

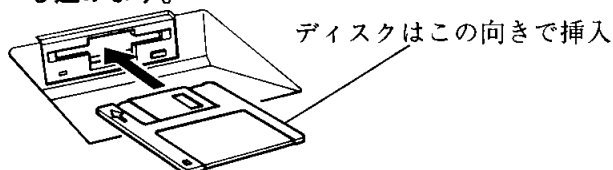
●内蔵のリズムスタイルを選ぶ場合



●ディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合

付属のディスクスタイルには、内蔵リズムスタイルと異なる40種類のスタイルが記憶されています。このスタイルの自動伴奏も使用できます。

①付属のディスクスタイルを、ディスク装着口に差し込みます。



②ソングセレクトボタンを押します。

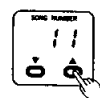
ランプが点灯します。



ディスクスタイル1およびディスクスタイル2のランプが点滅し、シングルフィンガーのスタート待機状態になります。(フィンガーの状態になっていた場合は、フィンガーのスタート待機状態になります。)

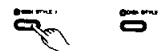
③ソングナンバーボタンで、リズムスタイルを指定します。

★ここでリズムスタートさせることにより、指定した番号のパターンを聴いて確かめることができます。(下記の「こんなこともできる!」の2番目の文章参照)



④ディスクスタイル1またはディスクスタイル2ボタンのどちらかを押します。

押したボタンのランプが点灯し、押したボタンに、選んだリズムパターンが記憶されます。記憶されると、ソングセレクトボタンのランプは消灯し、記憶されたディスクスタイルボタンのランプが点灯します。



【注意!】

- ・付属のディスクスタイルを使用した後は、決められた方法でディスクを取り出し、大切に保管してください。(41ページ参照)

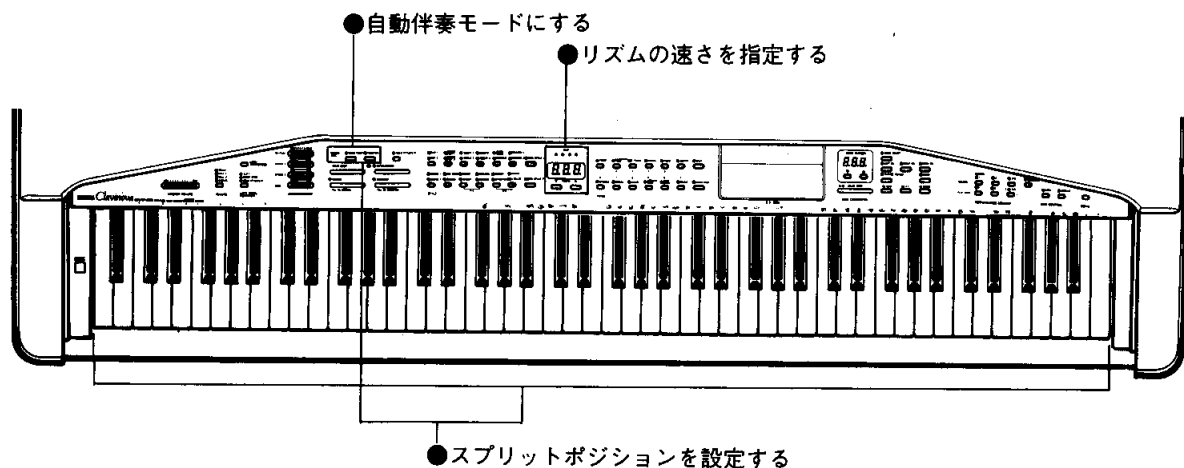
【補足】

- ・コード音、ベース音の音色は、スタイルを選択した時点で自動設定されます。

【こんなこともできる!】

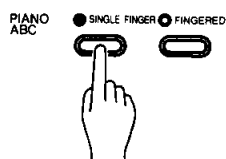
- ・ディスクスタイル内のリズムスタイルの指定方法には、もう1つあります。ドラムボタンを押しながらボイスボタンの1~0を押して指定する方法です。最初に10位の値を表示させ、次に1の位を表示させます。

- ・③の操作の後、低音側の鍵盤を押すと自動伴奏がスタートします。これは選んだリズムスタイルのパターンを、すぐに確かめることができるように設けられた機能です。
- ・④の操作の後、シングルフィンガーのボタンを押してランプを消灯させると、リズムだけ鳴らすことが可能になります。
- ・ディスクスタイル内のスタイルを1スタイルずつ別のディスクにコピーし好みの順序に並べかえることができます。(コピー手順はP51別ディスクへのコピーと同じです。)
- ・ディスクスタイルをコピーしたディスクを使用すると(ライトプロテクトのノッチを解除しておく)ディスクスタイルボタンに最後に記憶したスタイルを電源投入時に自動的に記憶します。



●自動伴奏(ピアノABC)モードにする

好みに合わせて、シングルフィンガーか、フィンガードの状態にしてください。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます。)



★付属のディスクスタイルのリズムスタイルを選んだ場合も選択できます。

シングルフィンガー機能を使う場合

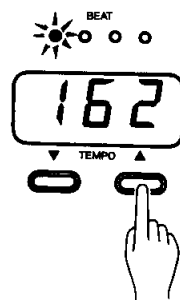
コードを押さなくても、簡単に自動伴奏させることができます。たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2,3鍵押さえるだけでOKです。

フィンガード機能を使うと

普通のコードの押さえ方で自動伴奏させることができます。

ピアノABC状態にするとスタート待機状態になります。(低音部の鍵盤を押すと自動伴奏がスタートします。)

●リズムの速さを指定する

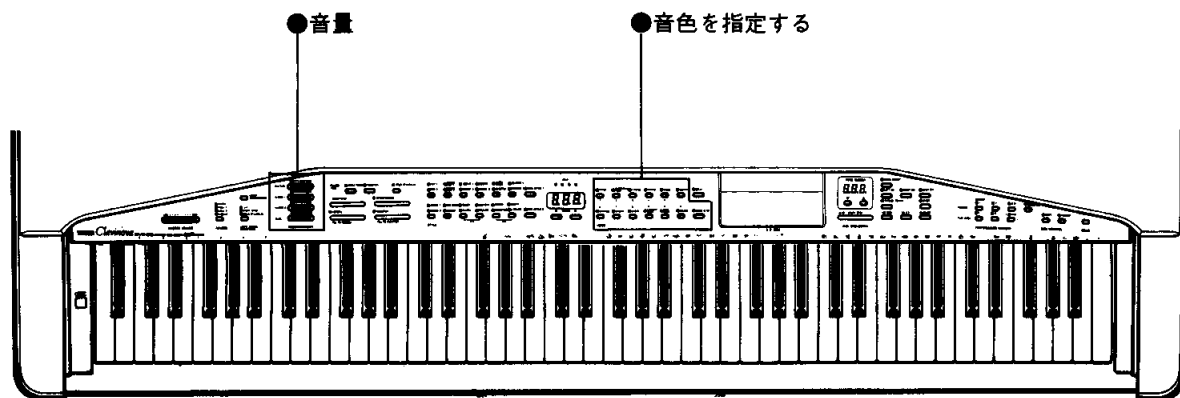


[補足]

- ・シングルフィンガーの場合は、4種類のコードに限定されますが、フィンガードの場合は、20種類のコード指定に対応します。
- ・電源を入れた時は、スプリットポジションはF#₂に設定されます。
- ・ピアノABC状態にした時に点灯したガイドランプの位置が、スプリットポジションです。
- ・境にした鍵盤は低音部側に含まれます。

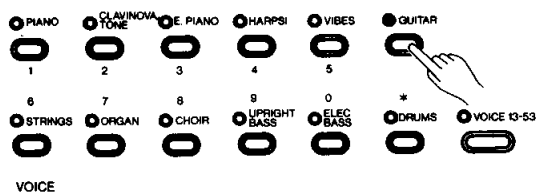
[こんなこともできる!]

- ・シングルフィンガーボタン、またはフィンガードボタンを押しながら、低音部(左手和音)と高音部(右手メロディー)の境にしたい鍵盤を押すことにより、スプリットポジションを変更できます。



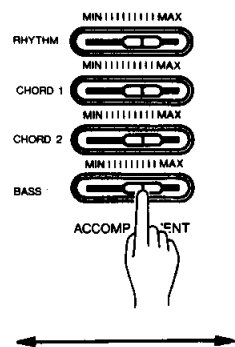
●音色を指定する

高音部(右手の演奏音)の音色を指定します。



●音量(ボリューム)について

リズムの音量をリズムボリューム、コードの音量をコード1および2ボリューム、ベースの音量をベースボリュームで、それぞれ調節します。



小さくなる 大きくなる

【注意！】

- ・各パートのボリュームが最小(MIN)の位置にあると、そのパートの音は出ません。
- ・マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、全ての音が出ません。

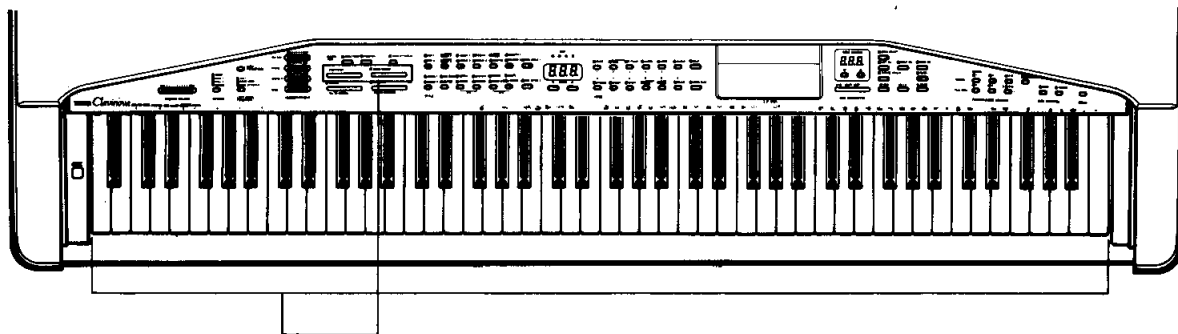
【こんなこともできる！】

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ベースボリュームを操作することにより、高音部の音量を調節できます。(調節後、ベースボリュームは通常の機能に戻ります。)
- ・なお高音部の音量調節後は、ベースの音量とベースボリュームの位置とは異なりますのでご注意ください。

【アドバイス！】

- ・4つのパートのボリュームを上図のような位置にセットすれば、全ての伴奏パートが標準的なバランスで鳴ります。
- ・4つのパートを全て鳴らすと厚みのある伴奏になりますが、曲によってはなじまないパートがあったり、右手メロディーと伴奏音がおつかってしまうことがあります。このような場合は、コード2のボリュームを最小にしてください。これにより、伴奏パターンの用途が広がります。

●演奏をスタートする/ストップする



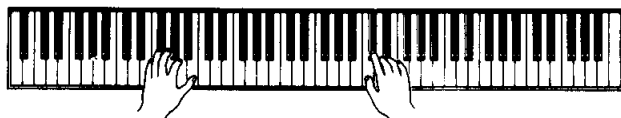
●演奏をスタートする/ストップする

演奏のスタート方法

リズムと伴奏を同時にスタートさせる場合

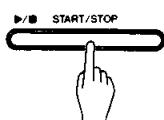
低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

低音部の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばそのまま持続します。



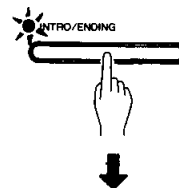
リズムを先にスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。



イントロスタートさせる場合

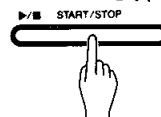
- ①イントロ/エンディングボタンを押し、
- ②低音部の鍵盤を押す。



演奏のストップ方法

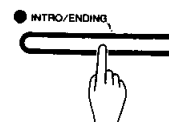
すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。



エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押す。



- ・ピアノABCモードでストップさせた場合はシンクロスタート待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを押して、ピアノABCの状態を解除してください。

【アドバイス!】

- ・コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。
- ・フィル トゥ ノーマルボタン、またはフィル トゥ バリエーションボタンを押して、フィルインやバリエーションパターンを入れると、より表現豊かな伴奏になります。

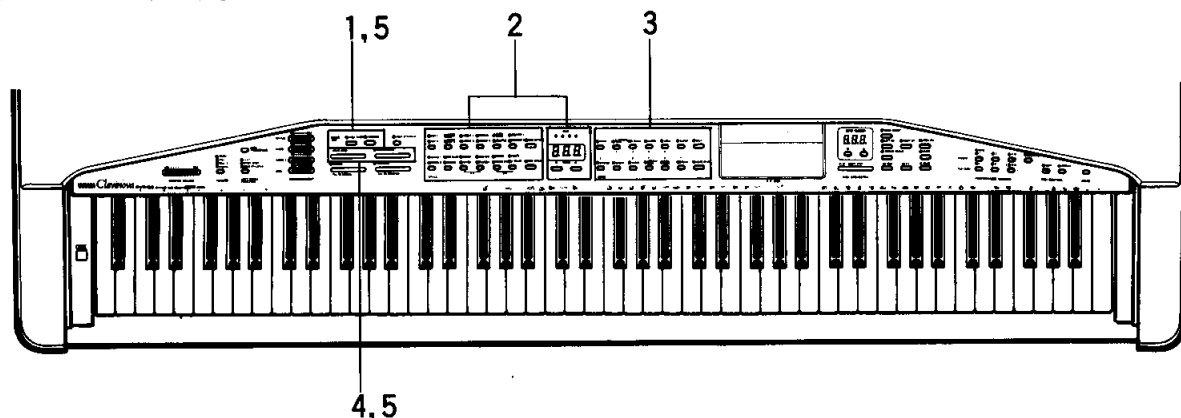
- ・付属の“シングルフィンガーコード一覧表”、および“フィンガードコード一覧表”を参照してください。

【こんなこともできる!】

- ・右手の押鍵により音量が自動的に低くなるコードパターンがあります。この場合、MIDI/トランスポーズボタンを押しながらボサノバボタンを押すことにより、低くならないモードにできます。

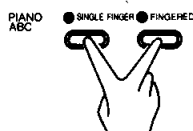
●フルキーボードABCで演奏

フルキーボードABCの機能を使った時は、全ての鍵盤の範囲が自動伴奏用の鍵盤になります。つまり通常のピアノ演奏をしながら、コードを変える時に押さえやすい所でコードを押さえることができます。



1 フルキーボードABCモードにする

シングルフィンガーボタンとフィンガードボタンを同時に押します。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます。)



両方のランプが点灯します。

フルキーボードABCの状態にするとスタート待機状態になります。(フィンガードコードの押え方で押さえると自動伴奏がスタートし、コードでない押え方をするとリズムだけがスタートします。)

2 リズムスタイル、リズムの速さを指定する

3 音色を指定する

- ・スプリット機能を使う場合：
手弾き音(低音部の押鍵音、高音部の押鍵音)の各音色を指定できます。
- ・デュアル機能を使う場合：
手弾き音の2音色を指定できます。
- ・いずれの機能も使わない場合：
手弾き音の音色を指定できます。

4 演奏の開始

スタート/ストップボタンを押して、リズムのみにスタートさせることも可能です。

★コードはフィンガードコードの押さえ方をしてください。

5 演奏の終了

- ①スタート/ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了します。
- ②フルキーボードABCの状態を解除する場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを2回押してください。

【補足】

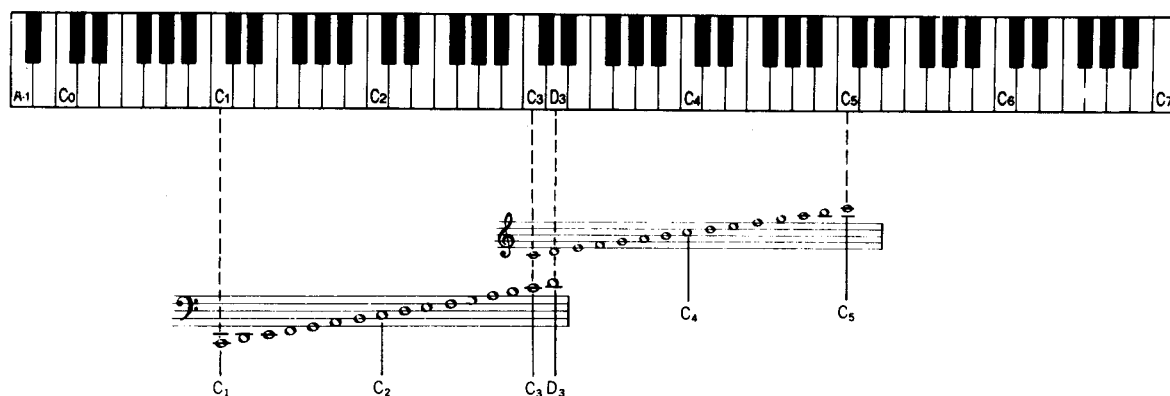
- ・フルキーボード機能は、ヤマハのポータブルキーボードで使われていた技術に応用した機能です。

【注意！】

- ・コードの検出は、コードの構成音を3音以上同時に弾いた時のみ行われます。それ以外の押鍵では、前のコード伴奏を継続します。
- ・5音以上同時に弾いた場合は、それらの内の低い方からの4鍵でコード検出されますが、その4鍵の中にコードの構成音が3音以上ない場合は、前のコード伴奏を継続します。

楽譜の読みかた

■鍵盤と五線譜の関係



■音符と休符の長さ

音符

音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ
全音符	4つ分のばす
付点2分音符	3つ分のばす
2分音符	2つ分のばす
4分音符	
8分音符	半分にする
16分音符	1/4にする
3連音符	3等分する





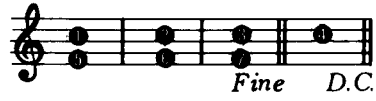







休符

休符の種類と名称	4分音符と比較した長さ
全休符	4つ分休む
付点2分休符	3つ分休む
2分休符	2つ分休む
4分休符	
8分休符	7(7 7 = 2)
16分休符	7(7 7 7 7 = 2)

(3連音符 は 3等分)

■記号の意味

記号と読み方	意味
 シャープ	半音上げる
 フラット	半音下げる
 ナチュラル	もとの音にもどす
 タイ	音を続ける
 スラー	なめらかに
 フェルマータ	その音をのばす
Tacet タセット	伴奏を休む
Fine フィーネ	おわり

記号と読み方	意味
 リピート	 くりかえし。
 1番かっこ 2番かっこ	 くりかえしのあと 2. へ。
D.C. ダカーボ	 最初からくりかえし。
D.S. ダルセーニョ	 記号  からくりかえし。
 Coda コーダ	  Coda くりかえしのあと  から  Coda へ。

●転回テクニックで楽々演奏

付属の“フィンガードコード一覧表”で見ても解るように、コード名の頭の大文字がほとんど最低音になって載っています。このように大文字、つまり専門用語で“ルート”とか“根音”と呼ばれる音を最も低い音にしたカタチをコードの“基本形”といいます。

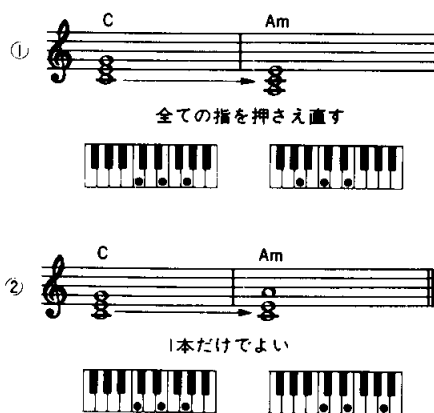
これに対し、音の積み重ねの順番を少し変えたものを“転回形”といいます。たとえば、Cメジャーコードを例にとると基本形は“ドミソ”ですが、〈例1〉のように、それを転回して“ミソド”と弾いても、“ソドミ”と弾いても、Cメジャーコードには変わりありません。

〈例1〉



このような転回のワザを身につけると、響きを楽しめるのと同時に、ピアノABC機能を使う時、演奏が楽になります。たとえば〈例2〉を見てください。①の方はCコードもAmコードも基本形ですが、CからAmに移る際“ドミソ”から“ラドミ”と変えなければいけないため、全ての指を押さえ直さなければなりません。次に②の方を見てください。こちらはAmコードに転回のワザを加えたものです。ソを押さえている指1本をとなりに動かして押さえ直すだけで、簡単にコードを変えることができます。

〈例2〉







●楽譜

パフォーマンスメモリー機能を使ってピアノABCとオブリガートを録音し、それに合わせて弾いてみましょう。
(41ページ参照)

- ①まず、1トラックのレコードボタンをオンにして、ピアノABCを録音します。
- ②2トラックにオブリガートを録音します。
- ③それらを、再生させながらメロディーを弾きます。

セッティング

スタイル	ポップ1 (ノーマル)	リズム ボリューム	RHYTHM 
テンポ	♩=66	コード1 ボリューム	CHORD 1 
ピアノABC	フィンガード	コード2 ボリューム	CHORD 2 
スプリット ポジション	F# ₂	ベース ボリューム	BASS 
オブリガート 音色	ジャズオルガン (音色番号29)	メロディー 音色	お好みの音色で!

いとしのエリー

作詞・作曲：桑田桂祐

INTRO スタート (1×休み)



オブリガート (トラック2)

メロディー (トラック1)

フィンガード
コード

C Em

C₁ F Dm G C D₇

1. 2.

F G C FILL TO NORMAL F G C A₇

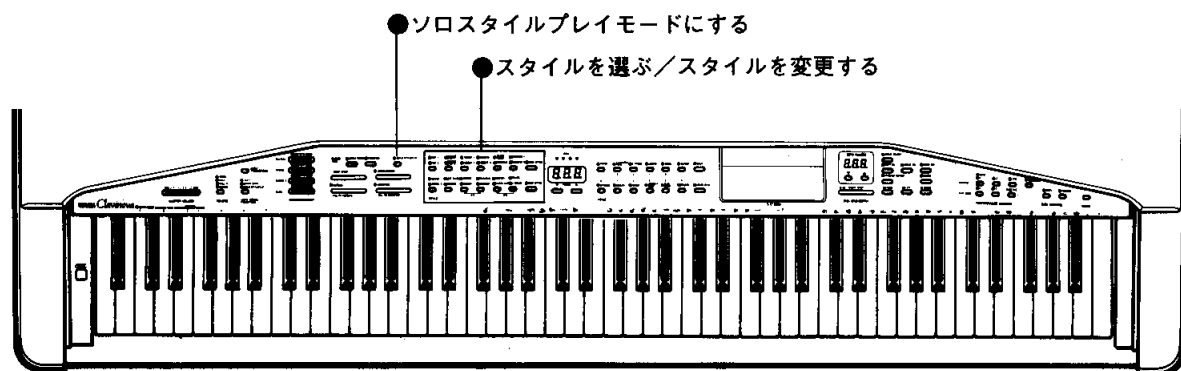
Dm G Em Am Dm G Em Am

F G Em A F G C D₇

F G C ENDING

●ソロスタイルで楽しもう

全リズムスタイルの中から好みのスタイルを選び、瞬時にセットアップして演奏できる機能です。選択により音色や装飾音が自動的にセットアップされると共に、ピアノABCの状態になります。演奏すると、右手の演奏音に装飾音が加わります。さあ、ソロスタイルで楽しみましょう。



●ソロスタイルプレイモードにする

ソロスタイルプレイボタンを押します。

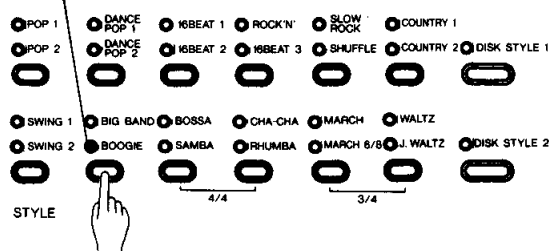


★ピアノABCモードになっていない時は、自動的にシングルフィンガーコードのスタート待機状態になります。

●スタイルを選ぶ

スタイルを選んでボタンを押します。

選んだスタイルのランプが点灯する。



●スタイルを変更する

スタイル変更は演奏中でも可能です。切り替えるスタイルを選んでスタイルボタンを押してください。

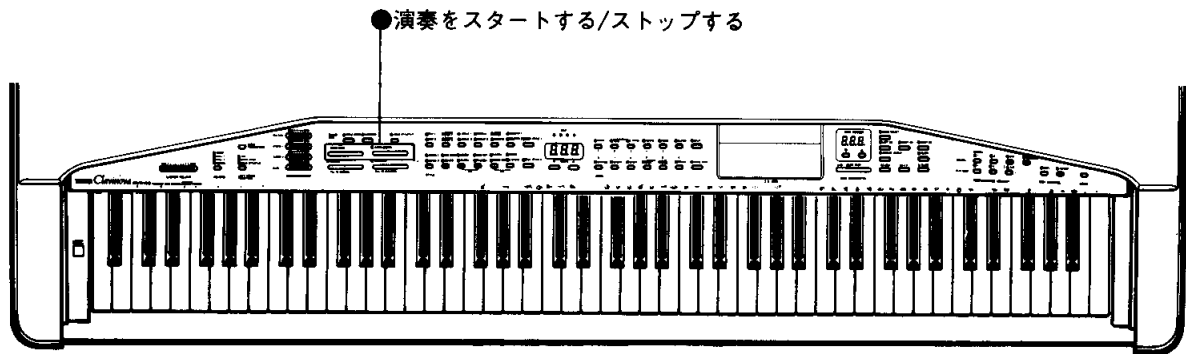
【こんなこともできる！】

- ・右手の演奏音の音色を変更したり、スプリットポイントを変更することが可能です。
- ・レフトペダルファンクションの設定をソロスタイルプレイにすると、レフトペダルを踏んでいる間のみ、高音部の演奏音に装飾音が付きます。
- ・リズム、コード1、コード2、ベース、全体の音量を、それぞれのボリュームで調節できます。
- ・ハーモニーのタイプは、指定したスタイルによって自動的に決まりますが、ハーモニーのタイプを他のスタイルのものに変更することもできます。変更する場合は、ソロスタイルボタンを押しながら、希望するスタイルのボタンを押します。(ただし、通常のスタイル切り替えを行ったり、パワースイッチをオフにすると、変更内容は消えます。)

【注意！】

- ・音色はスタイルごとに自動的に決まります。このため、音色変更はスタイル変更後に行わないと、スタイル変更時に変わってしまいます。
- ・ソステヌートをかけることはできません。

●演奏をスタートする/ストップする



演奏のスタート方法

シンクロスタートのままスタートさせる場合

低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

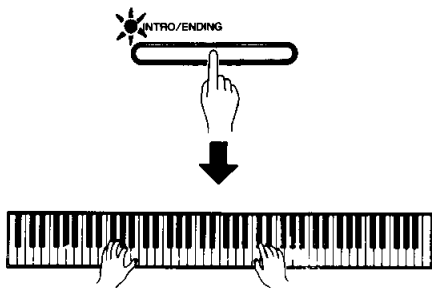
低音部の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばそのまま持続します。

リズムを先にスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。

イントロスタートさせる場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押し、
 - ②スタート/ストップボタンを押す。
- 又は低音部の鍵盤を押す。



演奏のストップ方法

すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。

エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押す。

- ・この状態でストップさせた場合はシンクロスタートの待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合はソロスタイルプレイ、シングルフィンガー、フィンガードのボタンを押して、ソロスタイルプレイおよびピアノABCの状態を解除してください。

【アドバイス！】

・左手演奏において鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが正確に鳴らないことがあります。

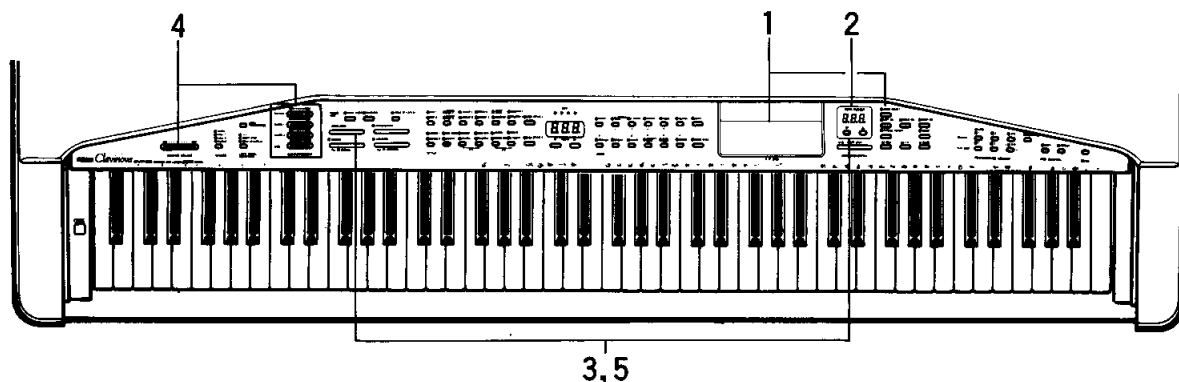
鍵盤から指を一旦離した上で、次のコードを指定してください

3. ディスクオーケストラについて

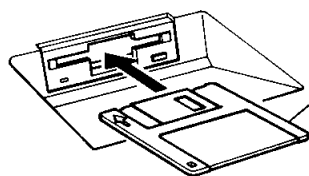
クラピノーバのための音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」を使えば、オーケストラの伴奏に合わせてピアノ演奏を楽しんだり、ピアノマイナスイワン演奏でオーケストラとの共演を楽しんだり、右手と左手を別々に練習することができます。

●自動演奏させる

「ディスクオーケストラコレクション」のディスクを、CVP-65で自動演奏させてみましょう。



- 1 「ディスクオーケストラコレクション」のフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。



ディスクはこの向きで挿入

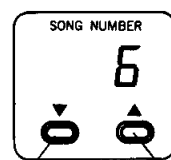
★ディスクを差し込むと、ソングセレクトボタン、レフトオンボタン、ライトオンボタン、オーケストラオンボタンのランプが点灯します。

すでにディスクが差し込まれていてソングセレクトボタンのランプが消えている場合は、ソングセレクトボタンを押して、ランプを点灯させます。



- 2 自動演奏させたい曲の番号を、ソングナンバーボタンで指定します。

ソングナンバー表示器を見ながら曲番号を指定します。



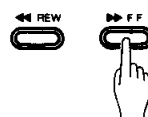
▼ボタンを押すごとに、曲番号 ▲ボタンを押すごとに、曲番号が1つずつ小さくなります。 が1つずつ大きくなります。

★ALLを表示させると、全曲の繰り返しになります。

[こんなこともできる!]

・右手パート、左手パート、オーケストラパートの音については、それぞれ自由にオフできます。詳しくは次項の「ディスクオーケストラに合わせて練習」をご覧ください。

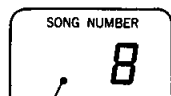
・◀戻しボタンを押すと、1小節単位で小節位置が戻ります。
・停止中または一時停止中に ▶送りボタンを押すと、1小節単位で小節位置が進みます。
また自動演奏中に▶送りボタンを押すと、早送り音を聴きながら連続して小節を進めることができます。



3 自動演奏の開始

スタート/ストップボタンまたはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押して、自動演奏をスタートさせます。カウント音の後にスタートする曲もあります。

★ソングナンバー表示器の下側左の点が点灯している時は、ディスク準備中ですのでスタートの操作をしても演奏は始まりません。



この点が点灯している時はスタートしない。

4 音量の調節

各ボリュームで各パートの音量を調節できます。

- ・全体……………マスターボリューム
- ・リズムパート……………リズムボリューム
- ・オーケストラパート(4～10トラック) ..コード1ボリューム
- ・右手、左手パート(1、2トラック)……コード2ボリューム
- ・ベースパート(3トラック) ……ベースボリューム

5 自動演奏の終了

曲の最後まで自動演奏されて自動的に停止します。途中で停止させる時は、スタート/ストップボタンまたはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押します。

- ・自動演奏中に一時停止(PAUSE)ボタンを押すと、自動演奏が一時停止します。もう一度押すと、一時停止した所から再スタートします。



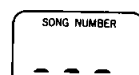
- ・レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにすると、レフトペダルでポーズ/ネクストフレーズの操作を行えるようになります。この機能は、レフトペダルを踏むたびに「演奏一時停止と次のフレーズ番号のところからの演奏開始」を行う機能です。ただし、全曲リピート中、フレーズリピート中およびガイド機能使用中はこの機能は使えません。
- ・自動演奏時のテンポを変更できます。

【注意！】

- ・曲によっては、小節数が楽譜と異なって表示されることがあります。
- ・曲の音量バランスによっては、ボリュームが最小(MIN)までいかないうちに音が消えてしまうパートがあります。

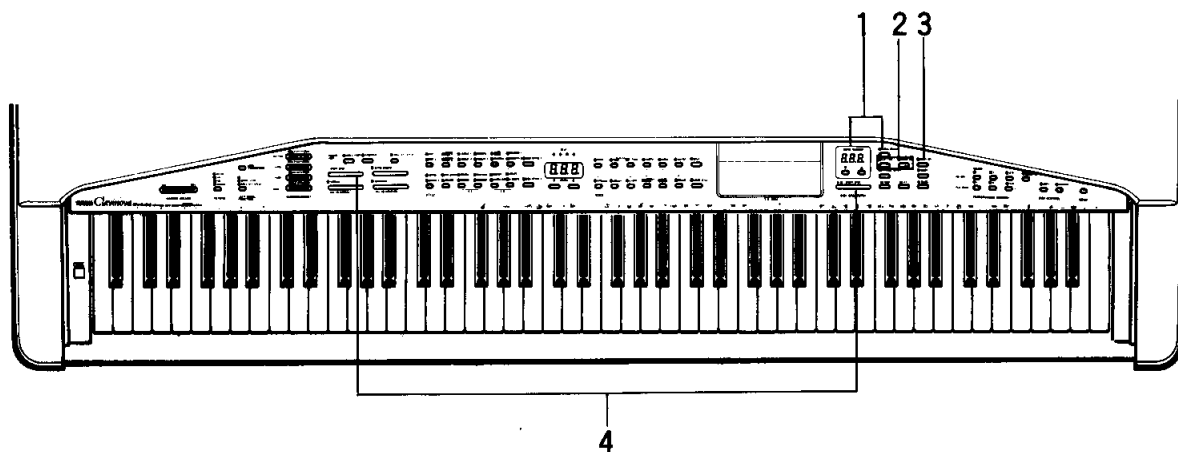
【補足】

- ・収録されている曲によっては、テンポが表示されない場合があります。その場合曲が停止中は、テンポ表示器に次のように表示され、演奏中は曲の進行を示す数字が表示されますが、この数字は小節とは関係ありません。



●ディスクオーケストラに合わせて練習（マイナスワン機能）

ピアノ演奏の右手パート、左手パートを別々に練習できます。

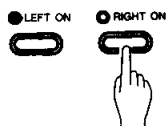


1 ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 練習したいパートのオンボタンを押してランプを消灯させます。

次の練習方法があります。

- ・ 右手パートを練習する時：
ライトオンボタンを押してランプを消す。
- ・ 左手パートを練習する時：
レフトオンボタンを押してランプを消す。
- ・ 右手・左手両パートを同時に練習する時：
ライトオンボタン、レフトオンボタンを押して、両方のランプを消す。



3 練習の際、オーケストラパートを鳴らしたくない場合は、オーケストラオンボタンを押してランプを消灯させます。



4 練習のスタート

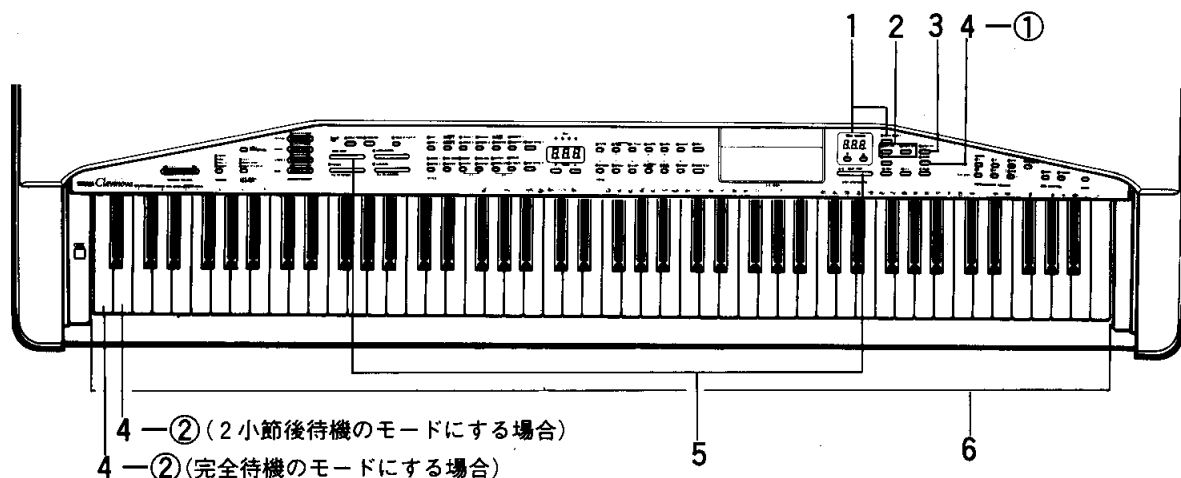
スタート/ストップボタン、またはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押すと、マイナスワン演奏が始まります。ランプを消灯させたパートの演奏音は聞こえません。曲に合わせて、オフにしたパートを自分の演奏で練習してみましょう。

【こんなこともできる！】

・ 各パートのボタンは、自動演奏の途中でもオン/オフできます。

●ガイドランプにしたがって弾く（ガイド機能）

主要パートである右手パート、左手パートを、各鍵盤の上にあるガイドランプを見ながら弾くことができます。

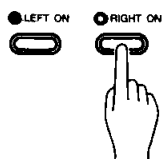


1 ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 練習したいパートのオンボタンを押してランプを消灯させます。

次の練習方法があります。

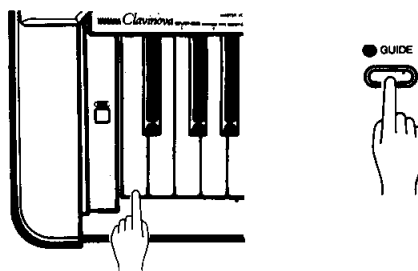
- ・右手パートを練習する時：
ライトオンボタンを押してランプを消す。
- ・左手パートを練習する時：
レフトオンボタンを押してランプを消す。
- ・右手・左手両パートを同時に練習する時：
ライトオンボタン、レフトオンボタンを押して、両ランプ共に消灯させるか点灯させます。



3 練習の際、オーケストラパートを鳴らしたくない場合は、オーケストラオンボタンを押してランプを消灯させます。

4 ガイド機能のモードを選ぶ
完全待機モードにする場合

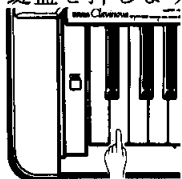
- ①ガイドボタンを押しながら(ガイドランプのボタンが点灯)、
- ②A-1の鍵盤を押します。



★ガイドランプで表示された鍵盤が押鍵されるまで、曲が進行せずに待機するモードです。

2小節後待機のモードにする場合

- ①ガイドボタンを押しながら(ガイドランプのボタンが点灯)、
- ②B-1の鍵盤を押します。



★ガイドランプで表示された鍵盤が2小節以上押鍵されなかった時、曲が進行せずに待機するモードです。(2小節の時間内に、1音でも表示鍵盤を押せば進行します。)

5 練習のスタート

スタート/ストップボタン、またはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押すと、マイナスイオン演奏が始まりますが、イントロが終わると曲が止まって自分で演奏する鍵盤の上のガイドランプが点灯します。

6 ガイドランプを追いかけてピアノ演奏

点灯したガイドランプ下の鍵盤を押さえると、次のランプが点灯します。

このように、ランプが点灯している鍵盤を押さえていき、右手パートを練習します。点灯している鍵盤を押さえるまで次に進まずに待機(または2小節以上押鍵がないと待機)していますので、自分のペースで練習することができます。

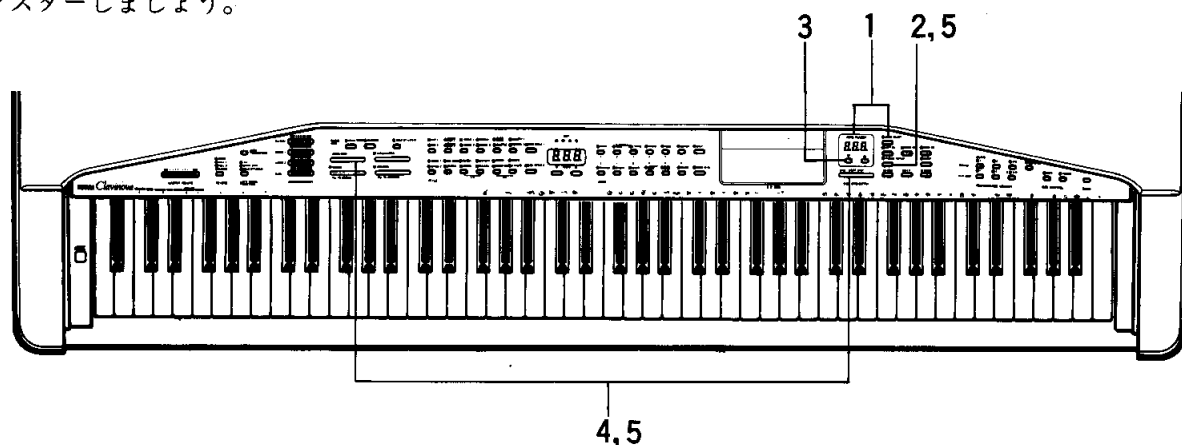


【こんなこともできる！】

・ガイドボタンは、自動演奏の途中でもオン/オフできます。

●苦手なフレーズを繰り返し練習 (フレーズリピート機能)

1曲の中の、あるフレーズだけを繰り返し自動演奏させることができます。繰り返し練習してマスターしましょう。



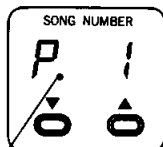
1 ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 フレーズリピートボタンを押します。

● PHRASE REPEAT



フレーズリピートボタンを押すと、ランプが点灯し、ソングナンバー表示器はフレーズ番号表示になります。



この点が点灯している時はスタートしません。

3 ソングナンバーボタンで、繰り返し練習したいフレーズの番号を指定します。

※フレーズ番号は楽譜上に表記してあります。

4 練習のスタート

スタート/ストップボタンまたはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押すと、1小節のカウント音の後に、選んだフレーズより自動演奏が始まり、次のフレーズまでの間が繰り返し演奏されます。繰り返し練習しましょう。

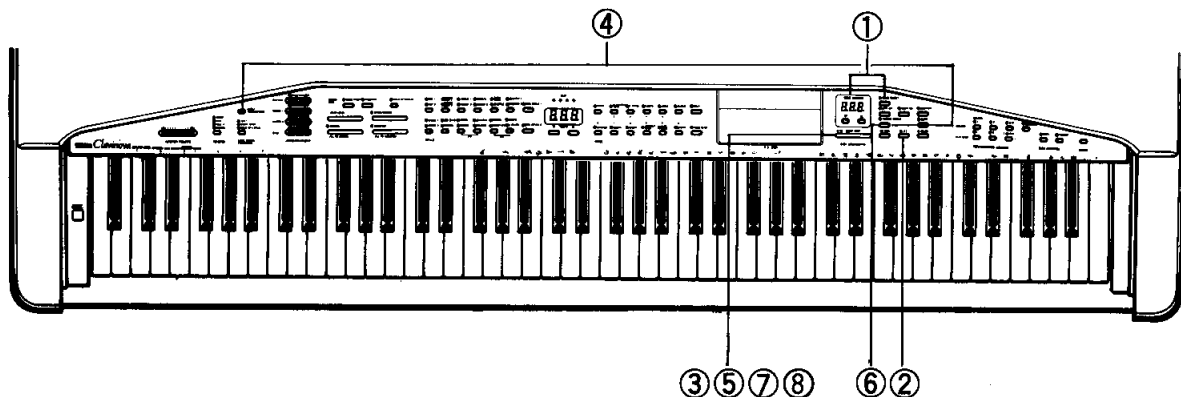
★繰り返しの回からは、カウント音は鳴りません。

5 フレーズリピート練習の終了

スタート/ストップボタン、またはディスクオーケストラのスタート/ストップボタンを押して停止させます。完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

●リピート練習する（A-Bリピート機能）

フレーズ番号にとらわれずに、曲中の2点間(A点とB点)を指定して、リピート練習が可能です。繰り返しの開始ポイントがA点、終了ポイントがB点です。



1 2点間指定の準備

- ①レッスンしたい曲を指定します。
- ②▶送りボタンを押してA点の少し前まで進めます。
- ③曲をスタートさせます。

2 A点とB点を指定します。

- ④自動演奏音を聴き、A点とB点が来たらMIDI/トランスポーズボタンを押しながら、それぞれフレーズリピートボタンを押します。
- ⑤曲を停止させます。

3 リピート練習の開始

- ⑥フレーズリピートボタンを押します(フレーズリピートボタンのランプが点灯し、ソングナンバー表示器にA-bが表示されます)。
- ⑦演奏をスタートさせます。繰り返し練習しましょう。

4 A-Bリピート練習の終了

- ⑧演奏を停止させます。
- ⑨完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

●録音用ディスクへのコピー (マイレパートリーづくり)

ディスクオーケストラコレクションの曲を、録音用のフロッピーディスクにコピーできます。右手(1トラック)、左手(2トラック)パートは自動的に除いてコピーされますので、オーケストラの伴奏をバックに自分の演奏を録音できます。

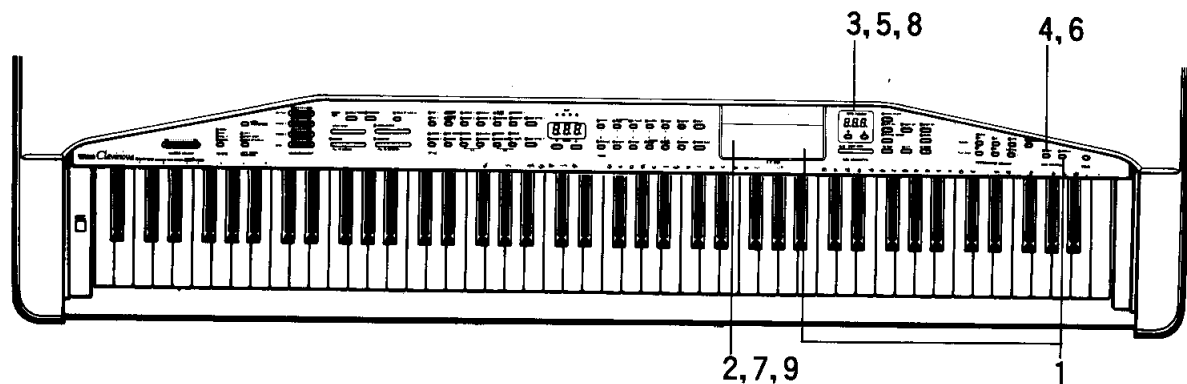
★一般のディスクに1曲のみコピーできます。

【注意!】

・曲番号を変更すると、A-Bリピート設定は解除されます。

【補足】

- ・再度A-Bリピートさせたい場合は、フレーズリピートボタンを押してA-bを表示させます。ただし、曲番号変更後は、再びA点とB点を指定する必要があります。
- ・A-Bリピート練習の場合は、カウント音は鳴りません。



1 コピー先の録音用ディスクをフォーマットします。
(42ページ参照)

2 コピー元の曲が入っているディスクオーケストラ
コレクションのディスクを、ディスク挿入口に差
し込みます。

3 ソングナンバーボタンでコピーしたい曲の番号を
指定します。

4 コピーボタンを押します。
すると、ランプが点滅を始め、ソングナンバー表
示器はc 0の表示になります。

5 ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指
定します。

c1~c60の範囲の曲番号を指定してください。

★この時点であれば、スタート/ストップボタン
を押すことによりコピーを解除できます。

6 もう一度コピーボタンを押します。

するとディスク挿入口横のユーズランプが点灯し、
ディスクオーケストラコレクションのディスクか
ら曲が読み込まれます。読み込みが終了と、ソ
ングナンバー表示器がd 2(録音用ディスクの挿入
要求)の表示になります。

7 ディスクオーケストラコレクションのディスクを
取り出し、コピー先のフロッピーディスクを差し
込みます。

すると、ソングナンバー表示器に、Y/nの確認表
示が出ます。

★次の操作8を行うと、コピー先のディスクにすで
に録音されている曲は全て消去された上でコピ
ーされます。すでに使用中のディスクにコピー
する場合は、その中身に充分注意してください。

8 コピー先のディスクを再確認してOKであれば、
▼ボタンを押します。
コピーが開始されます。

9 d1が表示されたら
本ページ下欄の[補足]をご覧ください。

10コピーが終了すると……
ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は通常の
曲番号表示に戻ります。

11再生または録音

コピーした曲を自動演奏させながら、自分で右手
パートおよび左手パートを弾いて1および2トラッ
クに録音できます(ピアノABCやソロスタイルプ
レイ機能を使った場合とは違ったアレンジによる、
自分だけのオリジナルディスクを作ることができます)。

[補足]

・コピー元のソングの演奏時間が長かったり、1曲の中でたくさんの機能を使っている場合は、一度にコピーできないことがあります。その場合、操作8の後d1(ディスクオーケストラコレクションのディスク挿入要求)の表示になります。

この時は、次の操作をしてください。

d1が表示されたら……ディスクオーケストラコレクションのディスクを
ディスク挿入口に差し込んで、d2表示になるま
で待つ。

d2が表示されたら……コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込ん
で、d1または曲番号表示になるまで待つ。
曲番号表示に戻ったら…コピーは終了です。

[注意!]

・操作11の方法で作成したオリジナルディスク内の演奏は、同一ディスク内
でのコピーは可能ですが、他のディスクへのコピーはできません。

4. 演奏を録音／再生する (パフォーマンスメモリー)

録音用のフロッピーディスクを使用することにより、自分の演奏を録音できます。録音できるのはリズムをスタートさせてから停止させるまでの間です。

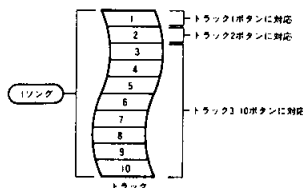
"1"、"2"、"3-10"に分かれて10トラックありますが、再生時には"3-10"トラックは同時に再生されます。

1曲をいくつかの演奏パートに分けて、トラック1にはギター音のパートを、2にはベースのパートを……、というように多重録音していくことができます。つまり、10トラック全てを使って1曲を仕上げるのが可能です。

ソングとは？

"1"、"2"、"3-10"の合計10トラックに録音した内容をひとまとめにして"ソング"と呼びます。

フロッピーディスクには、"ソング"単位で録音していきます。最大で60ソングまで録音できますが、1曲の演奏時間が長い場合や、1曲の中でたくさんの機能を使った場合などは60曲より少なくなってしまう場合があります。



●フロッピーディスクについて

パフォーマンスメモリー機能で演奏情報を録音するには、パソコンなどで使われているフロッピーディスクを使用します。

付属のディスクの内、1枚はまだ演奏情報が何も入っていない録音用ディスクです。この録音用ディスクに自分の演奏を録音していきます。また、市販のフロッピーディスクを使えば、自分の演奏の録音をどんどん増やしていけます。これに対して、もう1枚のすでに録音済みのディスクを自動演奏させるのがディスクオーケストラです。

大切な演奏の録音をこわしてしまったり、誤って消してしまわないために、次のことを守って正しく取り扱ってください。

◆CVP-65で使用するディスク

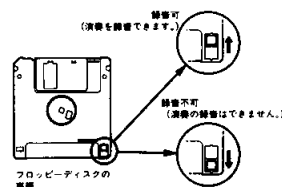
3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスクを使用してください。

◆フロッピーディスクの取り扱い

- ・テレビやスピーカーなど、磁気の強い物に近づけないでください。
- ・物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- ・濡らしたり、湿ったところに置かないでください。
- ・内部のディスク表面に手を触れないでください。
- ・使用後はケースに入れて保管してください。

◆録音した演奏の保護について

フロッピーディスクには、再録音できないようにするツメがあります。大切な演奏はこのツメを録音不可の状態にしておきます。そうすることにより、再生はできますが誤って再録音できないようになります。



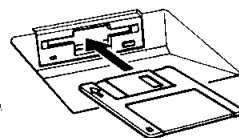
◆絶対にしてはいけないこと

ディスク挿入口の左下にあるユーズランプが点灯している時は、絶対に電源を切ったり、ディスクを取り出さないでください。CVP-65の故障の原因となるばかりでなく、ディスクに録音されている演奏情報をこわしてしまいます。

※ユーズランプが点灯している最中は、CVP-65とフロッピーディスクの間でデータがやりとりされています。

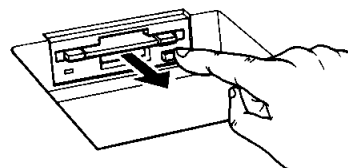
◆フロッピーディスクの入れかた

ディスク挿入口へ、ディスクの表面を上にして、ていねいに差し込んでください。



◆フロッピーディスクの取り出しかた

ユーズランプが消えていることを確認した上で、ディスク取り出しボタンを押します。



【こんなこともできる！】

・ディスクオーケストラコレクションのディスクに録音されているプロの演奏を、録音用ディスクにコピーすることも可能です。ただし、主旋律のパートについてはコピーできません。(後で主旋律を自分で演奏し、加えることができます。)

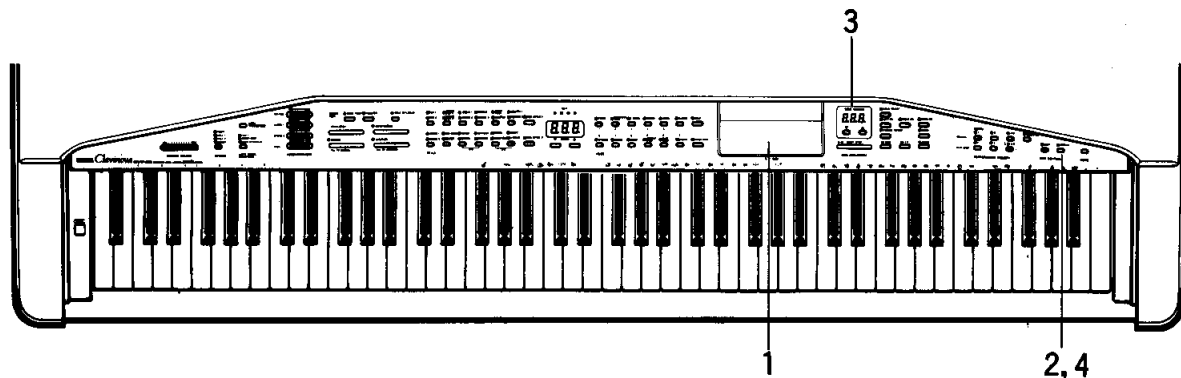
●録音する前に

●フォーマット(初期化)する

付属または市販の録音用フロッピーディスクはそのままでは使えません。

フォーマット(初期化)と言って、データの整理棚を作る操作をして、初めて演奏を録音できるようにします。

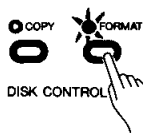
ただし、すでに使用中で演奏情報の入っているフロッピーディスクをフォーマットしてしまわないよう、十分注意してください。(フォーマットを実行すると、フロッピーディスクの内容は全て消えてしまいます。)



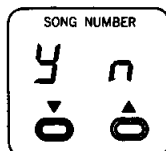
1 フロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

★まだフォーマットされていないディスクを差し込むと、ソングナンバー表示器に"For"が表示されます。

2 フォーマットボタンを押します。



ランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器に Y: YES、n: NOが表示されます。



中止したい時はスタート/ストップボタンを押します。

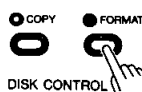
3 ソングナンバーボタンの▼を押します。

中止したい時は▲を押します。するとnoと表示されますので、フォーマットボタンをもう一度押してください。ランプが消灯し、フォーマットモードから通常のモードに戻ります。

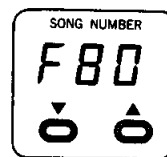


4 もう一度フォーマットボタンを押して、フォーマットを実行します。

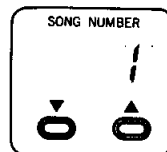
しばらく時間がかかりますが、"F80"の表示が曲番号表示に戻るまでお待ちください。



ランプが点灯に変わり、ソングナンバー表示器はカウント表示になり、数値が1つずつ小さくなっていきます。



フォーマットが終了すると、ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は曲番号1に戻ります。



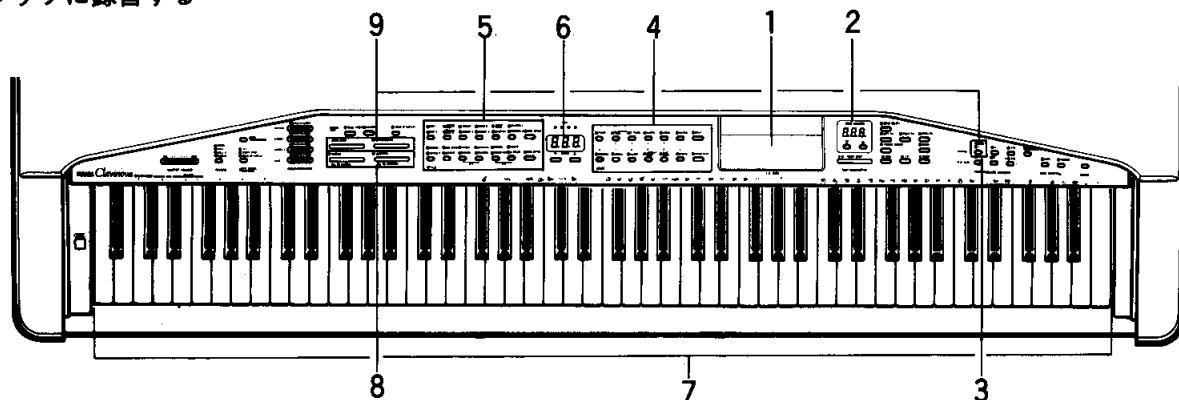
[注意!]

・ディスクオーケストラコレクションのディスクやピアノプレーヤー用のディスクを差し込んでも、フォーマットできません。

●演奏を録音する①

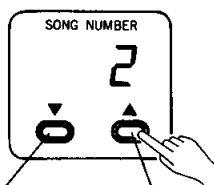
フロッピーディスクのフォーマットが終わったら、自分の演奏を録音してみましょう。

●1トラックに録音する



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンで曲番号を指定します。
ソングナンバー表示器を見ながら曲番号を指定します。



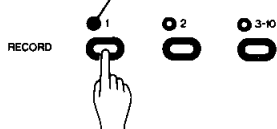
▼ボタンを押すごとに、数字が1つずつ小さくなります。

▲ボタンを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。

3 1トラックを指定する

1トラックのレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

1トラックのランプを点灯させる。



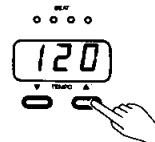
4 音色を指定する

5 リズムスタイルを指定する

録音する曲に合ったリズムスタイルを選んでください。(下記の「補足」1項目めの文章参照)

6 速さ(テンポ)を調節する

カウント音を聴きながら調節できます。



7 演奏の開始

鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップボタンを押してください。

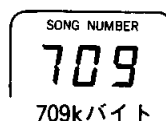
8 必要に応じて……

演奏の途中でフィルイン、バリエーションパターンを入れたりすると効果的です。これらの操作も実際に録音されます。

【補足】

- ・付属のディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合は操作5の時点ではなく、あらかじめ操作1の前にリズムスタイル指定(ディスクスタイル1または2に記憶させておく)しておいてください。
- ・マスターボリューム調整による全体の音量については、記憶されません。演奏しやすい音量にすればOKです。

- ・レコードボタンを離すと、そのディスクの記憶残容量がkバイト表示されます。
- ・メモリー容量は、バイト数にして約709kバイトです。レコードボタンを押した時、残りバイト数が709kバイトから表示され、残容量なしでディスクフルの表示になります。



～

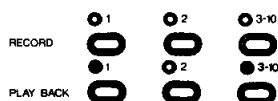


9 演奏の終了

スタート/ストップボタン、イントロ/エンディングボタン、レコードボタンのいずれかを押して演奏を終了します。

録音が終了すると、1トラックのレコードボタンのランプが消灯しトラック1および3のプレイバックボタンのランプが点灯してプレイの待機状態となります。

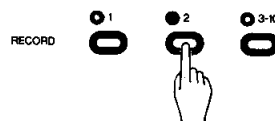
★3-10トラックへはリズムパートが記録されます。(ディスクにデータが書き込まれている間は点灯しています。)



●2トラックに録音する

2トラックのレコードボタンを押します。すると、4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

2トラックのランプを点灯させる。



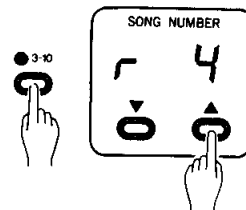
すでに録音済みのトラックを再生させながら、録音する場合は、再生させるトラックのプレイボタンのランプも点灯させる。

●3-10トラックに録音する

- ①レコード3-10ボタンを押しながら、
- ②ソングナンバーボタンで録音したいトラック番号を指定してください。

ランプが点灯し、ソングナンバー表示器はトラック番号表示になります。

3-10レコードボタンを押しながらソングナンバーボタンでトラック番号を指定します。



レコード3-10ボタンを離すと4分音符のタイミングでカウント音が鳴り始めます。この状態で録音待機状態です。

すでに録音済みのトラックを再生させながら、録音する場合は、再生させるトラックのプレイボタンのランプも点灯させる。

[注意1]

- ・カウントの音量はリズムボリュームに連動します。従って、リズムボリュームが最小(MIN)の位置にあるとカウント音は鳴りません。
- ・ピアノABC機能を使って録音する場合は、1トラックを指定してください。すると、1トラック以外に3-10トラックも自動的に録音待機状態になります。1トラックには右手の演奏が、3-10トラックには伴奏が録音されます。
- ・ソロスタイルプレイ機能を使って録音する場合は、1トラックを指定してください。すると、1トラック以外に2トラック、3-10トラックも自動的に録音待機状態になります。1トラックには右手の演奏が、2トラックには装飾音が、3-10トラックには伴奏が録音されます。
- ・ピアノABC機能やソロスタイルプレイ機能は、レコードボタンを押した時点で解除されます。これらの機能を使って録音する場合には、レコードボタンを押してから指定するようにしてください。
- ・トラックごとに別のリズムスタイルで録音することはできません。10トラックで1リズムスタイル固定です。
- ・演奏した内容は、録音を終了した時点で自動的にフロッピーディスクに保存されます。誤って、ディスクを入れないで録音してしまった場合、その内容は次の操作をした時点で消えてしまいます。

・パワースイッチをオフにした時。

・ディスクを入れてソングセレクトボタンを押した時。

保存したい場合は、フロッピーディスクへコピーの操作を行ってください。(50ページの3の操作から行ってください。)

・録音の途中でピアノABC機能をオン/オフすることはできません。

・録音の途中でソロスタイルプレイ機能をオン/オフすることはできません。ただし、レフトペダルファンクションの設定がソロスタイルプレイの場合は、レフトペダルで行えます。

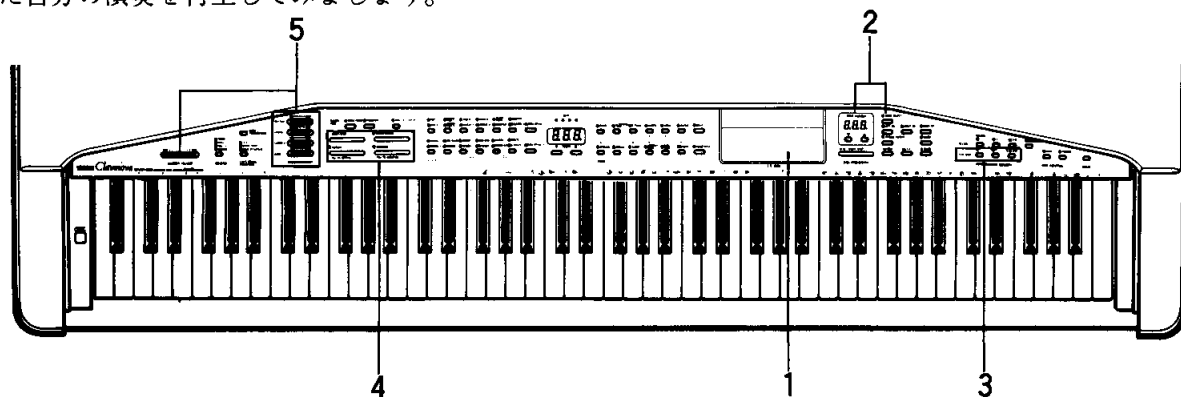
[こんなこともできる!]

・MIDI/トランスポートボタンを押しながらマーチボタンを押すと、各ボリュームの機能が次のように変わります。必要に応じて録音時のコントロールに使用してください。

- ・リズムボリューム ……モジュレーション
- ・コード1ボリューム ……ピッチベンドアップ
- ・コード2ボリューム ……ピッチベンドダウン
- ・ベースボリューム ……エクスプレッション

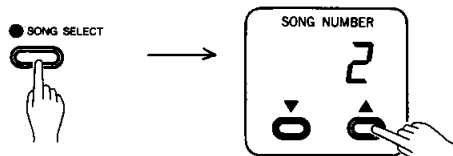
●演奏を再生させる

録音した自分の演奏を再生してみましょう。



1 再生するフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

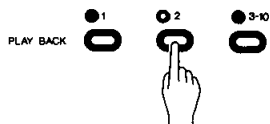
2 ソングセレクトボタンを押した上で、ソングナンバーボタンで再生したい曲の番号を指定します。
指定した曲のトラックが録音済みであれば、そのトラックのプレイバックボタンのランプが点灯します。



★ソングナンバー表示器にALLを表示させると、全曲の繰り返しになります。

3 トラックの選択

再生させたくないトラックがある場合は、そのトラックのプレイバックボタンを押してランプを消灯させます。



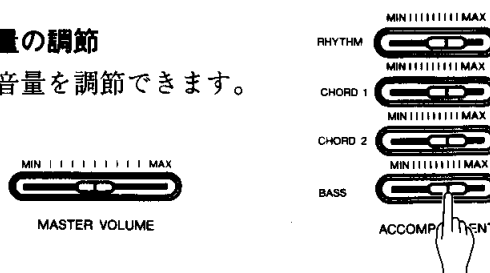
★3～10のトラックの再生を、個別にオン/オフすることもできます。(下記の「こんなこともできる!」の3つ目の文章参照)

4 再生の開始

スタート方法を指定し、再生をスタートさせます。(24ページ参照)

5 音量の調節

各音量を調節できます。



6 必要に応じて・・・

再生音に合わせて、音色を指定し他のパートを演奏することも可能です。

7 再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止しますが、途中でスタート/ストップボタンやイントロ/エンディングボタンを押して終了させることも可能です。

★再生終了後は、再生待機状態になります。再生待機状態を解除する時は、プレイボタンを再度押してランプを消灯させてください。

【こんなこともできる!】

- ・テンポやリズムスタイルを変えて再生させたり、フィルインを入れることも可能です。
- ・曲中の2点間(A点とB点)を指定して、リピート練習することも可能です。(39ページ参照)
- ・3-10トラックの再生を個別にオン/オフする場合は、次の方法で操作してください。
 - ①3-10トラックのプレイバックボタンのランプが点灯していることを確認します。(点灯していない場合は、3-10トラックのプレイバックボタンを押してランプを点灯させます。)
 - ②3-10トラックのプレイバックボタンを押しながら(録音されているトラックに対応するガイドランプが点灯、録音されていないトラックに対応

するガイドランプは消灯)、
なお、各トラックに対応するガイドランプ(鍵盤)は次のとおりです。
3トラック=D[♯]6、4=E6、5=F6、6=F[♯]6、7=G6、8=G[♯]6、9=A6、10=A[♯]6、
リズムトラック=C7
③オフにしたいトラックに該当するガイドランプ下の鍵盤を押します。(オフにしたトラックは点灯から点滅に変わる。)
④3-10トラックのプレイバックボタンを離します。
※オフにしたトラックをオンに戻す場合は、同様に操作してランプを点滅から点灯に戻してください。

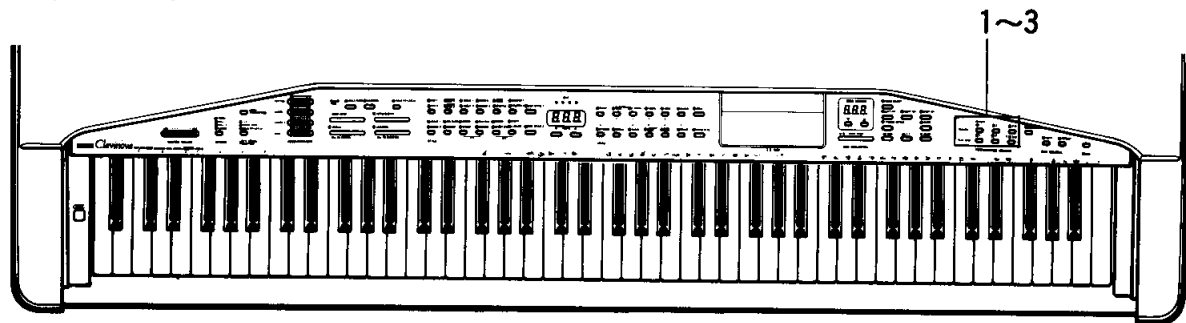
●記録内容について

記録内容は次のとおりです。なお、録音中に設定を変えた場合、実際にそのタイミングで記録されます。

- ・鍵盤情報
- ・音色選択(スプリットの場合は低音部の音色選択も含む。デュアルの場合はもう一方の音色選択も含む)
- ・リズムスタイル選択、テンポ
- ・イントロ、フィルイン、バリエーション、エンディング
- ・ピアノABCのオン/オフ(録音開始前のみ)
- ・シングルフィンガー/フィンガードの選択(録音開始前のみ)
- ・ソロスタイルプレイのオン/オフ(録音開始前のみ)
- ・スプリットポジション(録音開始前のみ)
- ・デュアルまたはスプリットのオン/オフ
- ・ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- ・リズムボリューム(ピアノABCまたはソロスタイルプレイの場合は、コード1、2ボリュームとベースボリュームも含む)
- ・リバーブスイッチの効果選択
- ・モジュレーション
- ・ピッチベンド
- ・エクスペッション

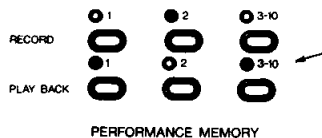
●多重録音について

多重録音は、もともとレコード制作の世界から生まれたテクニックです。まず最初にリズムスタイルを決めてトラック1に“基本にするパート”を録音。次にそれを再生しそれに合わせてトラック2に別のパートを録音。さらにトラック3～10にも……。これで完了です。最後に全てを一斉に再生できますから、あたかも大勢で一度に演奏しているように聞こえます。

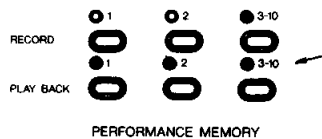


1 1トラックに右手パートを録音。

2 1トラックを再生させながら、2トラックに左手パートを録音。



3 1、2トラックを再生させながら、3-10トラックにオーケストラパートを録音していきます。



【アドバイス！】

・録音済みの曲番号に再録音する場合は、デリートの操作をして、その曲番号の内容を消去してから録音してください。(52ページ参照)

【注意！】

- ・録音済みのトラックに再録音すると、録音をスタートさせた時点で、そのトラックの前の内容が消えます。
- ・ピアノABC機能を使って再録音すると、録音をスタートさせた時点で、1トラックおよび3～9トラックの前の内容が消えます。
- ・ソロスタイルプレイ機能を使って再録音すると、録音をスタートさせた時点で、全てのトラックの前の内容が消えます。

【こんなこともできる！】

- ・録音の際に演奏を間違えてしまった場合は、以下のどちらかの方法で小節を進め、間違ったところから最後まで録音しなおすことで修正できます。
- ①録音しなおしたいトラックのレコードボタンを押して録音待機状態にし、送りボタンで小節を進めます。
- ②録音しなおしたいトラックのレコードボタンを押して録音待機状態にし、MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、音色ボタンの1～0ボタンで希望する小節にする。(必ず3桁で

指定します。たとえば5小節目の場合は005にします。)

なお、①の方法で指定した場合は、スタート/ストップボタンで再録音を開始させます。また、②の方法で指定した場合は、3桁入力と同時に自動的に再録音を開始されます。スタート後、鍵盤を押した時点より演奏が修正され、鍵盤を押す以前の演奏はそのまま残ります。

ただしディスクオーケストラコレクションよりコピーして録音したソングやソロスタイルプレイで録音したソングの1トラックではこの操作による修正はできません。

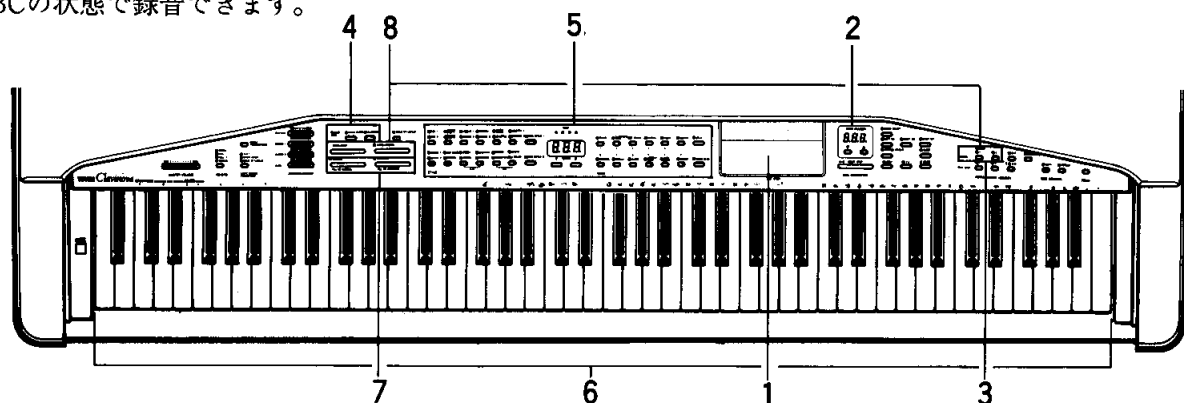
・以下の内容の初期設定は全トラック共通です。初期設定を変えたい場合は、該当するトラックのレコードボタンを押してからそれぞれの設定を変えてください。(ただし、レコードボタンを押した後に鍵盤を押したりスタート/ストップボタンを押したりすると、そのトラックの全ての内容が書き換わってしまいますので、初期設定を変える場合は充分注意してください。)

設定が終了したら、もう一度そのレコードボタンを押してランプを消灯させます。

- ・テンポ
- ・リバーブボタンの効果選択
- ・各トラックの初期音色
- ・各トラックの初期音量
- ・ピアノABC機能を使って録音済みの曲に、ソロスタイルプレイ機能をオンにして多重録音することも可能です。この場合は1トラックを録音状態、3～10トラックをプレイ状態、ソロスタイルプレイをオン状態にしてください。

●ピアノABC録音をする

ピアノABCの状態です録音できます。



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

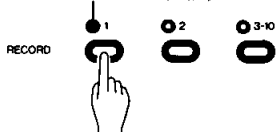
2 ソングナンバーボタンで曲番号を指定します。

[注意!]

・未録音の曲番号を指定してください。

3 1トラックを録音状態にします。

1トラックのランプを点灯させる。



4 ピアノABCの状態にします。

PIANO ABC SINGLE FINGER FINGERED



どちらかを選ぶ。

★3-10トラックのレコードボタンのランプが点灯します。

5 音色、リズムスタイル、テンポを指定します。(下記【補足】1項目めの文章参照)

6 演奏の開始

鍵盤を押すと、演奏を開始した時点から録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップボタンを押してください。

7 必要に応じて……

演奏の途中でフィルイン、バリエーションパターンを入れたりすると効果的です。これらの操作も実際に録音されます。

8 演奏の終了

スタート/ストップボタン、イントロ/エンディングボタン、レコードボタンのいずれかを押して演奏を終了します。

★録音が終了すると、1と3-10トラックのレコードボタンのランプが消灯します。(ディスクにデータが書き込まれている間は点灯しています。)

【補足】

- ・付属のディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合は操作5の時点でなく、あらかじめ操作1の前にリズムスタイル指定(ディスクスタイル1または2に記憶させておく)しておいてください。
- ・右手パートが1トラックに、伴奏が3-10トラックに録音されます。

【こんなこともできる!】

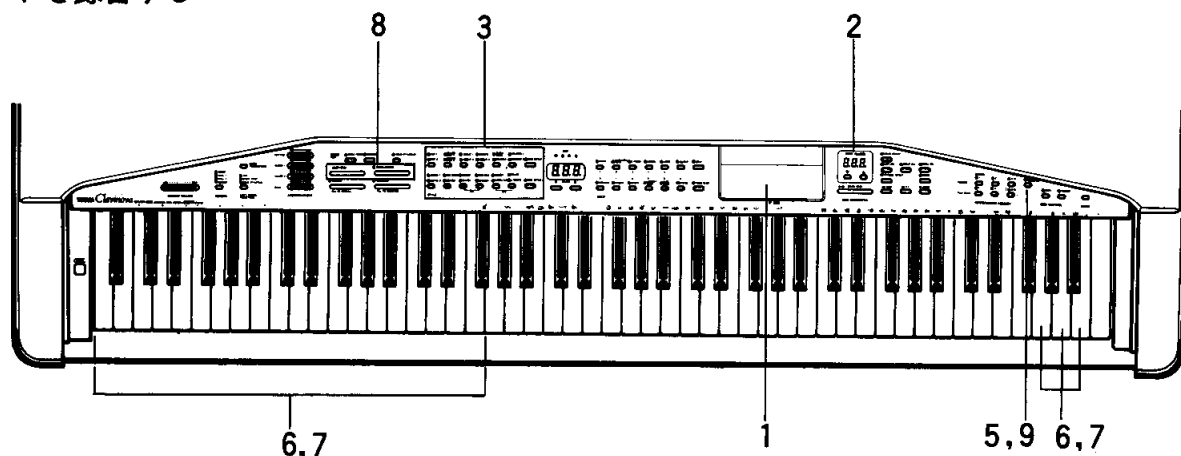
- ・録音した内容を再生させながら、左手パートを2トラックに録音することもできます。

●演奏を録音する②（コードシーケンス）

●コードシーケンスについて

ピアノABCまたはソロスタイルプレイ機能を使い伴奏を録音しようとしても、コードを素早く押さえられないという方のために設けられた機能です。リズムに合わせて弾かなくても、楽譜のコード進行を見ながらゆっくりと伴奏を録音できます。録音方法は、コードを確実に押さえた時点で入力、また次のコードを押さえて入力、という具合です。通常のピアノABCで録音した時と同じようにリズム、コード、ベースによる伴奏を以下の方法で録音できます。

●コードを録音する



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンで曲番号を指定します。

[注意!]

・未録音の曲番号を指定してください。

3 リズムスタイルを指定します。(下記【補足】の文章参照)

4 必要に応じて……

- ・スプリットポジションを指定します。
- ・各音量を指定します。
- ・後で再生する時のために、曲のテンポを指定します。

5 コードシーケンスボタンを押します。

コードシーケンスボタンのランプを点灯させる。



★伴奏はピアノABCの場合と同様に3-10トラックを使って録音されます。このため、すでに録音済みの場合は、全て消去されてしまいます。

★コードシーケンスボタンを押すと、フィンガーのランプも点灯します。もしシングルフィンガーの押さえ方でコード指定する場合は、この時点でシングルフィンガーの状態に変更してください。

【補足】

・付属のディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合は操作3の時点でなく、あらかじめ操作1の前にリズムスタイル指定(ディスクスタイル1または2に記憶させておく)しておいてください。

【注意!】

・コードシーケンスを使用して録音すると、3-10トラックにすでに録音されている内容のうち、3~9トラックは消えてしまいます。

【アドバイス!】

・録音を終えたら、確認のため必ず再生してみましょう。

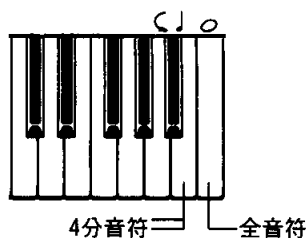
6 コードの入力開始

左手で最初のコードを押さえたなら、押さえたまま右手で J (4分音符) または o (全音符) の鍵盤を押します。これにより1つめのコードが入力されます。

★入力時、押鍵音はパネル上で選択されているスタイルのコード音色、ベース音はそのリズムスタイルのベース音色で発音されます。

[例：2分音符の長さのコードを入力する場合は？]

左手でコードを押さえたまま、右手で J (4分音符) の鍵盤を2回押します。つまり、4分音符+4分音符=2分音符という要領です。



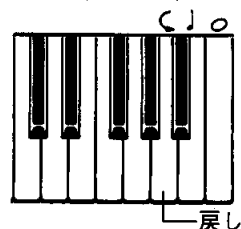
7 続けてコード入力

操作6の要領で2番目以降のコードを入力していきます。

★テンポ表示器の3桁で小節数が表示され、ビートランプで拍数が表示されます。

[間違えてコード入力してしまったら？]

(戻し)の鍵盤を押すごとに1拍前に戻ります。戻して、正しい音符を入力してください。



8 必要に応じて……

演奏の途中でスタイルやテンポを変更したり、フィルイン、バリエーションパターンを入れることができます。楽譜上で入れる位置を確認しながら忘れずに入力していきましょう。

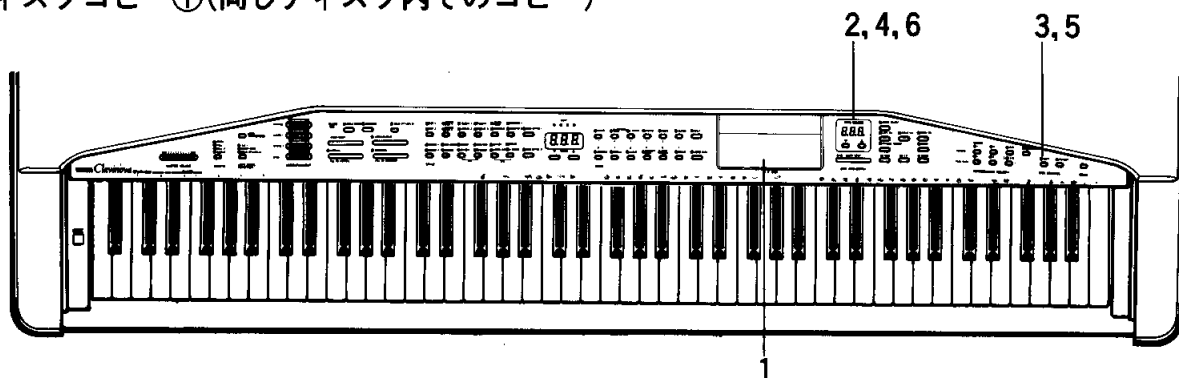
9 録音の終了

コードシーケンスボタンを再度押すと、シーケンスデータがパフォーマンスのフォーマットに変換されながらディスクに録音されて、終了します。

●ディスクの編集

曲作りの時や、曲のバックアップをとっておきたい時に、曲番号単位でコピーすることができます。同じディスク内での別の曲番号へのコピー、別のフロッピーディスクへのコピーのどちらでも可能です。

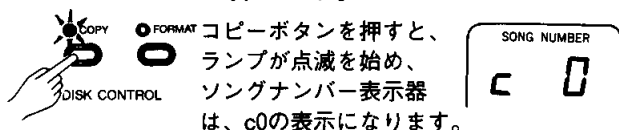
●ディスクコピー①(同じディスク内でのコピー)



1 コピーするフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンでコピー元の曲番号を指定します。

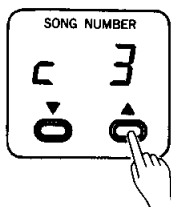
3 コピーボタンを押します。



4 ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指定します。

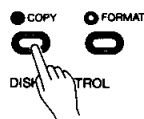
ただし、c1～c60の範囲の曲番号を指定してください。c1～c60の範囲の曲番号は別ディスクへのコピー向け番号です。

たとえば、3番にコピーしたいのならc 3を表示させます。



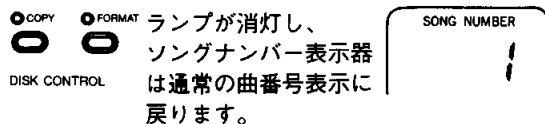
★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりコピーを解除できます。

5 もう一度コピーボタンを押します。しばらく時間がかかります。



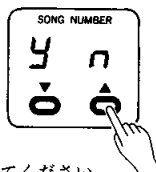
コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。

6 コピーが終了すると……



【補足】

- ・ソングナンバー表示の時のcは、コピーの頭文字のcを意味します。
- ・操作5の後、次のような表示が出る時は、コピー先の曲番号にすでに録音済です。コピー元の曲の内容に書き替えてもいい場合のみ、▼ボタンを押してください。コピーが開始されます。

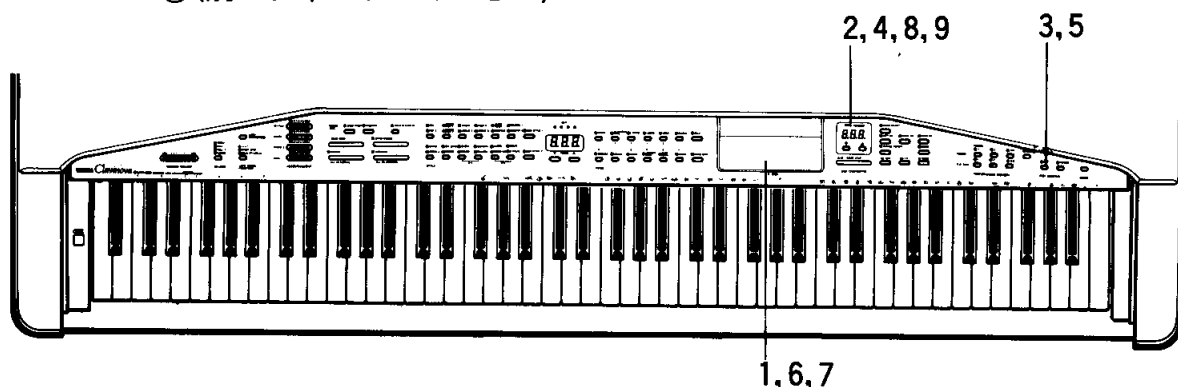


書き替えたくない場合は▲ボタンを押してください。

【注意！】

- ・操作2で、曲が入っていない曲番号を指定したりc0表示のままコピーボタンを押した場合は、コピーされません。

●ディスクコピー②(別のディスクへのコピー)



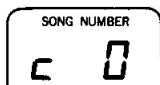
1 コピー元の曲が入っているフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンでコピー元の曲番号を指定します。

3 コピーボタンを押します。



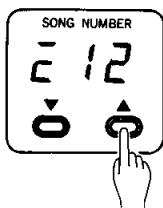
コピーボタンを押すと、ランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器は、c0の表示になります。



4 ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指定します。

別ディスクへのコピーが可能のように、c1～c60の範囲の曲番号を指定してください。(たとえば、別ディスクに曲番号12としてコピーする場合はc12にします。)

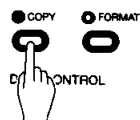
曲番号を指定する時は、テンポ表示器をご覧ください。



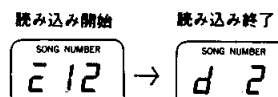
★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりコピーを解除できます。

5 もう一度コピーボタンを押します。

すると、コピー元のデータが、一時的に本体のメモリーに読み込まれます。しばらく時間がかかりますが、読み込みが終わるまでお待ちください。



コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。



6 読み込みが終わったら、コピー元のフロッピーディスクを取り出します。

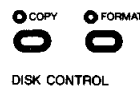
7 コピー先のフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

正しいディスクが挿入されると、ソングナンバー表示器にY/nの確認表示が出ます。

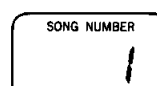
8 ▼ボタンを押します。

★コピーを実行したくない場合は▲ボタンを押してください。

9 コピーが終了すると……



ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は通常の曲番号表示に戻ります。



[補足]

・コピー元のソングの演奏時間が長かったり、1曲の中でたくさんの機能を使っている場合は、一度にコピーできないことがあります。その場合操作8の後、d1(コピー元のディスク挿入要求)の表示になります。

この時は、次の操作をしてください。

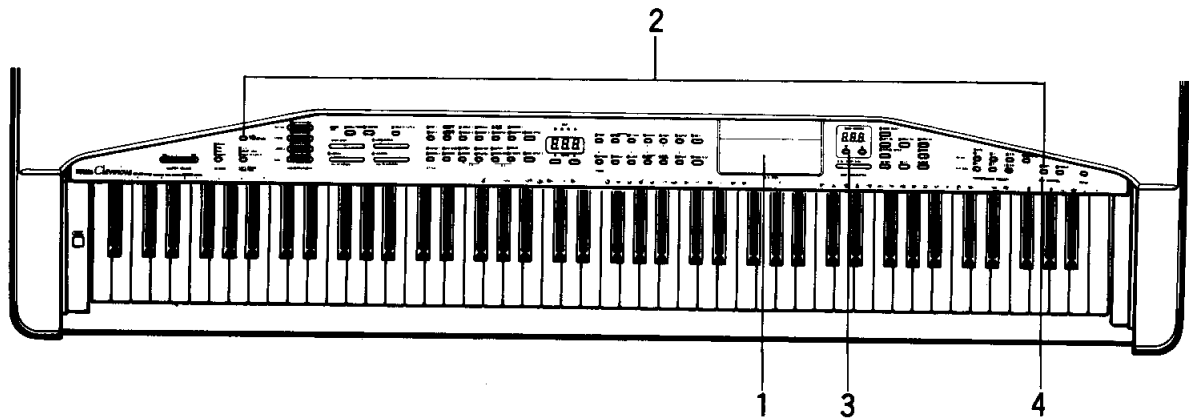
d1が表示されたら………コピー元のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d2表示になるまで待つ。

d2が表示されたら………コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d1または曲番号表示になるまで待つ。

曲番号表示に戻ったら…コピーは終了です。

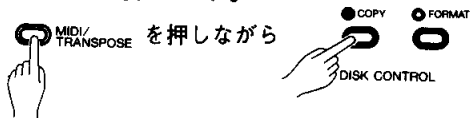
●内容を消去する(デリート)

曲番号単位で、その内容を消去することができます。この操作を実行すると、録音内容を復活させることはできませんので、誤って消去してしまわないように注意してください。

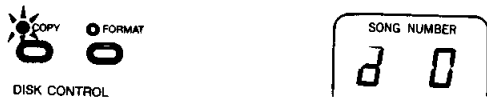


1 消去する曲が入ったフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

2 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、コピーボタンを押します。



コピーボタンのランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器はd 0の表示になります。



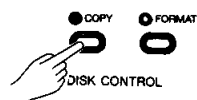
3 ソングナンバーボタンで消去したい曲番号を選びます。



★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりデリートを解除できます。

4 コピーボタンを押します。

しばらく時間がかかります。



コピーボタンを押すと、ランプが点灯に変わります。

消去が終了するとランプが消灯し、ソングナンバー表示器は曲番号表示に戻ります。



[アドバイス!]

- ・フロッピーディスクに録音されている内容を全て消してしまいたい時は、フォーマットの機能を使うと素早く行えます。42ページの“フォーマット(初期化)する”を参照してください。